明治三十七年五月七日第三種郵便物認可
大正十一年七月一日發行（毎月一回一日發行）
女子青年界第十九卷七月號

THE Y.W.C.A. MONTHLY

女子青年界

七月號

第十七回夏期修養會來る……修養會委員
共鳴の天地……村岸淸彦
ヨセミテの夏……額賀鹿之助
夏來れり……河井道子
所謂憲政常道論……岡崎聰介
羅馬書講解……武本喜代藏
島の乙女……村岡花子



登山に仁丹
一粒爽快
消化と衞生
仁丹
金言
嶮山に登るは當初緩歩するを要す
（セキスピア）
仁丹

女子青年界目次

第十九卷 第七號
大正七年十月一號

□第十七回夏期修養會來る……(二)
□夏來たれり……河井道子……(四)
□共鳴の天地……村岸清彦……(八)
□ヨセミテの夏……額賀鹿之助……(一三)
□所謂憲政常道論……岡崎應介……(一六)
□斷片五つ……岡崎小文……(二一)
□羅馬書講解(其二)……武本喜代藏……(二三)
□島の乙女……村岡花子……(二七)
□本部便り……(三一)
□市部報告……(三四)
□學生部便り……(三八)
□米國シカゴより……横山用子……(四二)
□平博日記及感想抜萃……(四二)
□新刊紹介及消息……(四七)
□英文……

東京上野に於ける平和博覽會第二會塲の外國館の敷地内に日本基督教女子青年會は**婦人無料休憩所**を設置しました。諸女學校から團體なり、個人なりで見物に御遊來の姉妹方は是非御立寄り御休息下さい、又御友人方にも御紹介下さい。番茶は何時でも湧いて居りますし、御氣分でもお惡るい時は應急の藥は備付てありますから、御手紙でもおかきなさるには紙は無代でさし上ますから御遠慮なく御使ひ下さい、御問合せにも出來る丈は應じます設備をしてゐます。紅茶とお菓子は風味のよいのがあり決して外より高價ではありませんからお試し下さる樣に願ひます。

池の端外國館別館出口

日本基督女子青年會

婦人休憩所

人間苦の解決

マクラウド著
皆田篤實譯

新版「四六判三五〇頁餘 定價貳圓五拾錢 郵送料拾貳錢

人生と苦痛！　こは千古に亘りて人類に提供されたる神秘である、何人も悲歎と苦痛との經驗無きはない。人生の旅路はげに涙に初り涙に終るが如きである。　舊約聖書「約百記」は此の問題を解決すべく生れた戯曲的史詩的哲學的哀詩である。カアライルは「此書は筆にものされた世界最大の傑作にして人間不朽の問題を明にせる萬人の書也」と云つた。本書は約百記研究の世界的權威たる著者が畢生の心血を注いで永久に新なるヨブ記の中心問題たる人間苦と宇宙の道徳的統治とを明かにして惱める者の慰籍となり光明となるべき不朽の著である。　譯文流麗何等澁晦の跡なし、敢て江湖に薦む。

帆足理一郎譯著

人生詩人ブラウニング

「再版」四六判五百頁　定價貳圓五拾錢　稅拾四錢

憧憬の詩人、奮闘の詩人、愛の詩人、力の詩人、沙翁以來の唯一人たる天才詩人ブラウニング去つて既に卅年彼は時代に先んずる事遠く、難解の詩人として生前に愛誦する者少なかりしも、今や時勢の進歩と共に日を趁ふ英米の社會に持て囃され、崇拜されつゝあり、彼が幽玄の哲理、熱烈の信仰は、剛膽鋭犀の詩筆に映發して限りなき創造にいそしむ靈の進化と人格の向上を謳へる樂觀の福音、人生の進行曲は、讀者をして肉躍り血湧き坐ろに奮闘活躍の勇士たらしむ、偉なる哉ブラウニング、著者は多年英詩研究に沒頭して殊に此詩聖の崇拜者たり玆に彼の評傳を綴り、又其傑作なる詩劇「ピパは過ぎ往く」以下十餘種の敍情詩を譯出し以て江湖に薦む

▼宗教と人生（九版）　▼價貳圓五拾錢　▼郵稅十四錢

▼哲理と人生（七版）　▼定價金貳圓　▼郵稅十二錢

發兌元　東京市麴町區隼町廿番地　振替口座東京二〇九一四　洛陽堂　（電話九段九六六番）

エミール教育論

内山賢次全譯

▽菊判天金布製函入九百頁餘　▽定價六圓八拾錢　▽郵稅廿七錢

「ルーソー著」少しでも心あるものが今の日本の教育界に身を置いて泌み〴〵と思ふことは、ペスタロッチやフレーベルや其他の生き〴〵した思想がいかに末派の教育者達によつて歪められ、歪められたまゝで固定されてゐるかといふことです。彼等は口癖のやうに「注ぎ込むな、引出」せといつてゐます。それでゐて彼等は何も引き出すことをせずに只注ぎ込まないことを誇りとしてゐるのです。そこには實に不自然な、少しの深みもない、技巧的な近代教育があるばかりです。さうして少しの深みもない、上辷りした、小利巧な小供が育つてゆくのです。モンテッソリーだつて、フレーベルだつてペスタロッチだつて決してこんなつもりぢやなかつたと思ひます。ましてルーソーはこんなつもりぢやなかつたのです、私達は引返してまだ形の定まらなかつた、それだけ情熱に潤ふてゐる教育論を讀み、「自然に歸れ」の教育思想を採り度いと思ひます。この意味に於て「エミール」の始めての全譯をこゝに提供致します。

帆足理一郎著

哲學概論（十三版）

▽定價 四五〇
郵稅 一八

發兌元　東京市麴町區隼町廿番地　振替口座東京二〇一九一四　洛陽堂　（目錄往復葉書進呈）


クラブ歯磨
品が良い
歯に良い
口に良い
歯科醫學上理想の優良歯磨
紳士の美髪法
カテイ石鹸
又ハ
クラブ洗粉
タオル
クラブキニーネ
クラブチック
又ハ
クラブポマード
櫛
調髪
英姿颯爽

女子青年界

第十九巻

第七號

「謙遜と柔和と寛容なる心を以て行ひ愛を以て互に忍び平和といふ繋の中に務めて靈の賜ふ所の一なるを守るべし。體は一、靈は一なり汝等の召れて有つ所の望の一なるが如し。主一信仰一バプテスマ一つ神すなはち萬人の父一なり。彼は萬人の上にあり萬人に貫き萬人の中に在り。吾等各々キリストの賜ふ所の量に循ひて恩を賜ふなり。」

人類の聯盟、協力、合同一致の聲は反響から反響に傳り。其烽火は燃えあがらんとし、國々の民これを自覺し今日實現への數歩が歩み出された。新しき聲か、非ず二千年の昔の聲である。聖者イエスキリストによつて叫ばれた聲で示された道の光である。心を澄し耳をかたむけ全靈全人格をもて其聲を聞き其光を見其道に歩み度いものである。

日本基督教女子青年會 第十七回夏期修養會來る

日本基督教女子青年會の一大行事となつて居ます夏季修養會を、今年は既報の如く御殿場東山莊に於て七月十二日から開催することゝなりました。每年場所には、當局者の苦心をする事は、一通りでありません。例年よりも早く本年開催するのも、場所の都合上止を得ない結果であります。時日が早過ぎると、心配したにもかゝはらず、既に申込は定員を超過し、如何にこれを制限すべきかに困る狀態であります。是等より推しても修養會の必要とこれに對する姉妹方の御熱心とはよく現れてゐます。一日も早く我々所有の地所及建物の必要を感じます。多分今年の修養會は他より場所を借り受ける最後のものでありませう。明年は小さくとも女子青年會の所有の場所に於て開催せんと希望し決心して居ます。就ては本年の修養會に出席さるゝ方々は從來より以上に眞面目に青年會の立場や其將來等について熟考されたいものであります。

時日の都合上今回は主として市の青年會員及專門學校の學生諸姉が出席されると豫想しますから、プログラムもそれに準じたものを作つた心算であります。既に十六回も會を重ねて來た修養會であり、且つ日本に於てかゝる會合が女子の爲に開かれたのは、女子青年會が嚆矢と思ひます故に、將來猶も先驅としてかゝる事業を發展さしめるには數人の考に止まらず、なるべく多くの人々が其意見を發表して眞實に是が謂所民衆的の女子運動に大に貢獻するものたらしめ度い希望です。開會中に土地、建物、募金の方法等も提出される事と存じます故前以て出席者は是等に對し所見を述べる御用意を遊してゐらして下さい。猶本誌愛讀者の方々も何卒此點につき御高見を發表されん事を私どもは切望して止みません。

去年あの成功を修め得た其地で緑の森が、鶯の聲が、白百合の香が、池の姿が浮んで來ませう。然しながら其美しい天地を更に美くしく貴い靈氣に充たす者は姉妹方の一人々々です、打開いた、謙遜の心、饑え渴く如く義を慕ふ心、キリストによつて一つにならんとする貴い心の集る時美しい雰圍氣が出現さるゝのでありみす、出席者は量に於て溢るゝ申込がありますが更に質に於て貴い有益なそして去年よりも一歩進だよい波紋を周圍に描く集であるやう切望して居ます。

講師の諸先生

今年の標語に就て……河井道子
日米關係の新起原……ドクターアキスリング
永遠のキリスト……同右
青年會の母より娘へ……井深花子
指導者……渡邊善太
現代文學に現れたるキリスト教思想……中山昌樹
人生の價値……山室軍平
其他栗原基氏、中路チカ子氏、ヂエーンスコト氏などです

聖書の組

求道者の組……中路チカ子氏
ガラテヤ書……金井爲一郎氏
新約……郷司慥爾氏
舊約……渡邊善太氏

夏期修養會委員

大正十年七月一日

夏來れり

河井道子

いつ迄も春の如く思つて居る中に俄に暑氣が加り入梅となり、知らぬうちに暑が追かけて來た思ひが致します。夏は活力の豐富を表代してゐます、播れた種子の良否が判然する時であります、成長繁茂の著しい季節でありますが、同時に又害虫も雜草も毒草も繁殖し、水害暴風の襲來し易い時季であります夏の朝の白露や、月澄む夜の心地よさは又他に譬へんものもありません、しかし日中の隋氣倦怠も又他の季節には到底感ぜぬものであります。

我女子青年會も最早春の時代がやゝ過ぎて、夏の時代に移つた樣に思はれます。學校の青年會も市の方も播かれた種子の良否が漸く明かになり來りつゝある感がいたします、今は發展の好期節であり、凡てが活力に溢れてゐる樣であります、しかし又一方には他より襲來の思想が暴風雨となつたり、働人の不足や肥料の不足で成長を妨げてゐるのもあり、或は靈的營養不良に苦む青年會もあります。以前は勢甚だ旺盛であつたが、疲勞や倦怠病に罹つてゐるのもありますが、概して云へば元氣よく成長しつゝあり將來有望であります。今訪問したる東北の學校青年會の模樣を略記して彼等の將來を讀者と共に祝し度く存じます。

五月卅一日の朝大阪から東京に歸り其午後に本部中央委員會の總會を新渡戸邸に開き六月一日午後一時上野發にて弘前に向ひました。弘前からは昨冬より屢々招待を受けましたがやうやく相互の都合よき日取が出來て訪問することになりました。翌二日に弘前女學校に於て歡迎を受け、數年以前同校を訪問

した時に御目にかゝつた兩三名の先生方や又修養會に御出席なさつた古川先生、仙臺に奉職されし佐藤みな先生など此地で再會するの喜びを經驗致しました。初夏の爽々しさは東北に限ります、特に此學校より眞正面に眺めらるゝ盤城山が見るさへ涼しき雪嶺を頂き朝な夕なの空氣が如何にも美しう御座います、關西や東京の汗苦しい中より往つて、新綠滴る樹木の陰に學ぶ學生等を見ると如何にも羨しい心地が致しました、東北の人々には惇朴なところに賴もしさが現はれて居ります、此學校の校風なのかも知れませんが生徒等が妙に氣取つたり、はにかんだりする樣子もなく、問ふべきところは尋ね、答へることは明瞭に答へ挨拶もはつきりとなし司會をする時など聲も朗かで女學校の三四年生とは思はれない心地がいたしました、この學校は四十年近い歷史を持ち多くの卒業生を出して居ります、然し土地柄か如何にも保守的で女子敎育には進歩おそき恨みがあります、卒業生にして高等敎育を志望する者があつても親達が之を許さず今尙早婚の弊を打破し難いそうです、これは弘前に限らず女子敎育の不振の土地は皆この有樣でありませう、かゝる土地に早くより女子敎育の必要を認め學校を創立されたる外國宣敎師達の識見と努力と忍耐とには感謝と敬意を表すべきであります。

弘前女學校の女子青年會は順境にあると思ひます敎師生徒協力して之を有力なる團體にせんと努力されつゝあります、私は校内に於て數回講演後敎會に於て重に縣立高等女學校生徒の爲めの集合に臨みました、之も弘前女學校青年會の努力と又縣立女學校に奉職さるゝ一信者の先生の働きの結果であります

四日夕刻青森につき一泊して翌朝函館に渡らんとしましたが案内された旅館のあまりに不潔なのに驚き其夜十一時の船にて海峽を渡り翌朝早く函館に着しました。舊友時任ちか子姉の宅は遺愛女學校の隣で見るから心地よき牧場であります、其處に午後二時まで休憩し四方山の話に時を移し子供等に案内さ

れて園内をまわり歩き、菫を摘み、ライラックの匂を嗅ぎ鵞鳥を追ひ苺の花をかぞへ牛小屋にゆき牧場を駈けまわりなどして都會にては到底味はひ得ざる長閑な半日を送りました。新宅のお座敷から開展した景色は第一に花畑、次に何千坪の菜畑、その次に麥畑その向ふは砂山、その全體を海が圍つてゐます之と同じ風景を眺めつゝ朝夕に學業をいそしんで居るのが遺愛女學校の生徒方であります、まるでアメリカの大きな農場そのまゝの景色でかゝる場所に育つものは心身共に健かであるべきでありませう。

六月とはいへ遺愛女學校の校内には八重櫻がまだ散りもせで春を惜しむ姿であります、藤棚は白、青の房を長く垂れ蜂を招いて居ります、匂のよい灌木が其處此處に今を盛りと咲き亂れ黄、白、紫の菖蒲が幾列にもなつて校舍寄宿舍の緣を彩つて居ります其間々には西洋花が赤や桃色と巾廣きリボンを擴げた如くに咲てゐて春と夏一處に花を咲かせた趣きがあります。此學校の先生中にはこの春東京女子大學を卒業された飯沼いく、内田秀、松野なか子の諸姉がをられ、以前甲府の英和女學校に奉職された成澤たへ子姉、又同校に忠實に働かるゝ井出のぶ子、猿川秀子の兩姉などに逢ひ、同校出身者なる堀順子、鈴木とみゑ兩姉の話が度々もち上りました、來る六月廿八、九日は同校の創立四十年紀念式を執行さるゝことは何たる慶事でありませう。日本女子教育に貢献したるこの學校の功績を私共は心より感謝すべきであります、

此回さま〴〵に催された集會のうち特に喜ばしく思つたのは函館高等女學校の生徒二百六十名が電車にて四十分もかゝるこの遺愛女學校に來て聯合的に集會されたことであります、之も又學校青年會の努力と高等女學校にある信者の先生の熱心に依ることであります。會後に私に會見を求めた一教師があつて誰かと思ふとこの三月まで仙臺宮城女學校女子青年會々長であつた粂文江姉でありました。同姉は卒業後直ちに廳立高等女學校に教鞭をとらるゝことゝ

なり是非よき感化を校員生徒に與へんと努力中であります。いかでかゝる忠實なる若き先生方のあることを感謝せずに居られませう。七日に函館教會にて母の會を開き直ちに四時の船にて青森に向ひ翌八日朝早く仙臺に着しました。相變らず御親切なる原田ことぢ先生が二人の生徒を引きつれ出むかへて下さひました、其日の宮城女學校青年會の歡迎は誠に非常なものでありました。生徒方の活動ぶりを是非他の青年會に御紹介したいやうにさへ感じました。翌日は朝早くより尙絅女學校にゆき終日をおくりました、この學校も亦非常な活氣がありどうしてかくまでに進歩されたか不思議な位であります。これも同校には英學塾にて青年會に熱心であつた佐藤みさを姉、捜眞女學校青年會の會長であつた川村やう子姉、昨年修養會に出席された青木とよ姉などが中心になつて青年會を動かして居らるゝのと職員生徒間の協力に富む結果でありましよう。同日午後三時より女子師範學校生徒と大學病院の看護婦諸姉を招き集會が開かれ、その後幹部委員會の御手料理の御馳走を受け又宮城女學校に歸りました、十日は宮城女學校一、二、三年生にて組織さるゝレンポークラブにて話を致したが、意外にも生徒方が自發的に集金をされて之を東京平和博覽會内女看守の事業に寄附したしとの申出でゞありました、私は驚嘆し皆の同情に動かされずには居られませんでした、かゝる年若き少女達が十二圓近き金を喜んで出し之を他の姉妹におくるその精神は如何にも貴いものであります午後より縣立第一、第二高等女學校生徒を招待して又講演會を開かれました、ともかくも各宗教の學校が官公立の學校に接近して宗教的會合を開く如き氣運になつたことは私共の感謝であり且つ又留意しなければならぬことであります、聞くところに依れば仙臺は教育界に多くの基督者或は同情者を持つてゐるやうであります、この際基督教的女學校の教職員の責分は一層重くなることゝ存じます。

この宮城尙絅の兩女學校青年會は此春協同音樂會

を開き其純益金五百餘圓を中歐の學生救濟にあてた美擧があります。又宮城女學校靑年會は過日貯金課の勤務女子百幾名を招待して慰勞會を開いたと聞きます。かく校內靑年會が社會的の事業に興味を感ずるやうに指導された敎職員方の努力は偉大なるものであります。どうしても在學中に、他に奉仕する精神を涵養されなくては婦人が社會、敎育等の問題を眞面目に改善するなどは六ケ敷ことであります。何と世人が批評しましても宗教を土臺とした學校には他校の持たない他愛心と奉仕の觀念とがあります。是非此等を伸してゆく樣に先輩方の御指導を願ひます。此度の學校訪問で學びし事の一は、靑年會本部には巡廻幹事が必要と申ことであります、もう一は小修養會を地方にて時々開くと云ふことであります此等に對して秋よりは新計畫を立てやうと考へて居ります。來る七月御殿場にての修養會にて此等を充分に協議し實行しうべき處は着々竣功させ度いものであります。

共鳴の天地

村岸清彦

【一】

打ち鳴らされた大梵鐘の音波は、大氣に響き渡つて圓狀に擴がつて行く。もし遮斷物がなければ、何處までも餘韻賑々として盡きないが、森か山かに堰かれて彈き返されると、茲に大反響が起る。人はこれを普通山彥と言ひ、音樂的には共鳴と名ける。

是は水上の波にもある。湖上に一の波紋を起すと圓狀の波濤が連綿と果しなく岸邊を指して押しよせる。巓に碎け岸に激した波は、更に波打際から引返して沖へと歸つて行く。寄せては返し返しては寄せ

來る大瀾漣漪相呼び相應へる波濤の戯れにも、水の共鳴があるのである。

光も一種の共鳴を持つ。耀然たる太陽が、宇宙の闇を縫ふてその光を、地球に月に凡ての遊星に投げるので、自らでは輝かぬ遊星が、こゝに光源よりの光波を受け是を反射して輝き出る。光の反影は、光に於ける一の共鳴であると云へよう。

陰陽二極が相反撥して發する火花又は光輝、それから消積兩極が相觸れ合ふ所に起る磁力等も電磁氣界の共鳴である。分子の親和力並びに反應作用、太陽と遊星間の遠心力や求心力、これも自然界の大共鳴に相違ない。

【二】

人と自然との間にも、大なる共鳴の事實がある。バイロンが「山も波も空も皆我心の一部にして我又彼等の一部なり」と謳ひ、ホヰットマンが「地上の花は天使が地球を訪る姿」「花の香は綠草の中に滴らし給へる神の香水の薫なり」と詠じ、ヘブライの詩人が「天地を神の能力と智慧との表示」と觀、イエスが「野の百合に、空飛ぶ鳥に神の攝理」を直觀せしは、地人共鳴の美しい記錄ではないか。

雲表に聳ゆる峻峰に神威の靈を感じ、洋々たる太洋に無限を思念し、藍碧の大空に不變を認め燃ゆるが如き綠の野に希望を抱き、滔々千古の長江に永遠を觀るは、これ人の恒である。心附かざれど、花卉盆栽を愛し、山水草花を描き、又これを衣服の模樣に應用して賞美する人と自然との間には、慥かに一脈の相通ふものがある。

無心の山水既にさうであるなら、まして有心の生物に於てをや。鹽原多助が馬を弟の如く愛し、古今の武將が己れの如く乘馬を愛した話は今でも遺つて居る。將軍綱吉であつたと思ふ、犬を愛したのは有名な話ではないか。フランシスは小鳥に說敎したと言はれる。或外國の音樂師が荒野の旅で狼襲の難に逢ひ、決死の一曲をヴアイオリンに訴へ狼群を醉はして僅かに一命を拾つた話もある。一囚人が獄中で鼠

を友として始めて、愛情の尊さを覺り、善人になつたとの物語も露西亞の傳説にある。

もと人間には自然を美と感じ是を想愛せではをられぬ心情がある。而して自然は又かゝる人間に應ふべきものを有つて居るのである。或る詩人が「自然を愛する人には、自然は必ず答へる」と言つたは正しい。イエスが波濤を鎭め海上を歩いた話や、シーザーが「我はシーザーなり」と叫んで船の覆沒を救ふた話や、大鹽平八郎が琵琶湖上の狂瀾を一喝して鎭定したとの傳説は、決して嘘説とは見られない。自然は非凡なる人格に共鳴せずには居ないから。

【三】

共鳴と言へば恐らく人間ほど之れに生き、之れに由て動く者はあるまい。プラトンが愛を謳ふた以前から、人は愛の生物であつた。愛は男靈と女靈とをいみじくも惹付け結び付ける神秘な而して強大な力である。人は此愛の共鳴に依て、愛の日課を學び歡喜も悲哀をも二つながら訓練しつゝある、實に愛せる人生にのみ生甲斐があるのだ。よし人の戀がダンテの愛に終り、或は又近松の描く悲壯の戀となるにしても、人は只愛の共鳴に全人の悅樂を覺える。燒野の雉子夜の鶴、子故に迷ふは親心である。他人が捨てた時でも猶捨て得ぬのは親である。人は他人の子の行動を冷やかに見るが、親は決して冷視しないで、その子の批評をするよりも全體をいとしむ。愛あつてこそ子は聽て親に歸つて行くのである。誠に親は子に依て生き、子は又親を求める。親なくて子の育つ例は世にあらうが、然し親心なくしては子の心は美しく成長しない。高野山に父を探ねた石童丸母の愛に惹かれ大津信の許を脫出したかの中江藤樹それほどの父なり母なりを持つた彼等は幸である。歸るどき父を有てる放蕩兒は、父の心に憩ふべき途を自ら閉ざした兄よりも遙かに惠まれて居る。あゝこの惹く力、引かるゝ力、これ血が血を覓める一種の共鳴である。

親しき友と友との心は、互ひに惹きつ惹かれつす

る。往々そこには親子よりも夫婦よりも濃かな愛に終始して悔ひぬ生命がある。大西郷は一度僧月照と海に投じた事があり、又管仲鮑叔とはその貧時に於て水魚の交りを斷たず。イエスは反逆者となつたユダをも棄てず、弟子等又彼のために殉教を遂ぐ。二つが一つに結ばれた心の働きは誠に美はしい。よし二人が未だ互ひに相知らずとも、偉大な心と心とは共鳴する。日蓮が謙倉で諸宗説伏の大獅子吼をした時、彼は狂僧と見られたに、獨り智海法師は彼を一瞥して「これ實に一代の英僧なり」と言つた。王陽明は青年の頃、或る老翁に「汝研學せよ、聖壇に到らむ」と言はれて發奮したと傳へられる。ヨハネがイエスに授洗した時、「これ神の子ならん」と思ひ、イエス又ヨハネを「豫言者の中最も大なる者」と謂つたのは面白い。英雄を知るものは英雄である。而して肝膽相照らすそこが共鳴の天地である。

【四】

社會の聲を輿論といふ。それは初め先覺者が擧げた叫びに、民衆が相呼應した所の社會共通の意見である。一つの聲が講壇か又は紙上に擧がる、すると四隅から賛否の聲が起り、軈て孰れかゞ是認されるかくて一犬吠へて萬犬之に和する、これ實に共鳴である。而して是あるがために社會が動き進み、改善される。然し社會の輿論を造るには聲や文章だけではいけぬ場合があらう、その時こそ肉彈である、流血の聲である。

斯樣な物語が殘つてゐる。昔ローマでは、人獸爭鬪の慘酷な興行が流行した。識者はその非を叫び、法律でも禁じて居たが矯まるどころか、血に飢ゑた幾萬の觀衆は劇場さして雲集するのであつた。而して將に悲劇の幕が切つて落され樣とした時、あゝ眞にその時、一人の青年僧が疾風の如く鬪場に飛び込み、そうして遂に猛獸の牙にかけられた。これ以來殘忍な國民的の娛樂がバッタリと止んだといふ事である。痲痺した人々の良心を刺戟するには、血でなくてはいけぬらしい。

或時イエスの許へ現行犯の婦人を捕へて「石にて打ち殺すべきか」と訊ねに來た僞善者達があつた。「罪なきものまづ女を打て」世に果して「罪なき者」といふべき者があるだらうか。一人去り二人去つて自らを義とするパリサイ人すらも、其場に居るに堪へなかつたといふ。これは何といふ皮肉な痛快な共鳴であらう。

イエスの一言で婦人は救はれた。併しまだ僞善者等は降伏しない。鈍れた人の心は醒め切らぬ。其所では言説や聲では駄目である。そこで流血が求められた。神自身の滿足のためでなく、眠れる人のためにである。實に人を醒ますには血が要る。肉を裂かねばならない。一國の革命にすら流血があるのだもの、まして人類の革命ではないか。「我もし擧げられなば萬民を引いて家に來らせん。」とは決して誇張でない、事實である。歴史的事實である。見よ、イエスの死に依て捲起された一大輿論に、全世界が感激し、感奮し、共鳴して起つたではないか。基督教の社會的事業、福音の宣傳、教會、信者、君達も私もこれ皆イエスの死に感激した共鳴の一節ではないか。

【五】

宗教はかく靈と靈と相觸れ相應じ、相惹き相引かれる共鳴の上に立つ。自然でも生物でも人間でも、皆互ひに共鳴し合ふ樣に造られたのは誠に悦ばしい創造の時、神が「よし」と見給ふたのは當然である。我々が自然界を見て心を惹かれるのは、その背後に神が在すからである。その神に我が心が拔け出て憧れ行くからである。

花や草や鳥や獸やは、それ自らは神ではないが、少くとも神の使ひとして神の攝理を語るものとして神が榮光を讃美するものとして、吾等は何となく心惹かるゝを覺える。

親子の心根を分け行いて見よ、生命の支流を溯り上へ上へと辿り行け、やがては生命の本流に出逢ふであらう。吾々は只親と言ひ、子といふものゝ形の

みを見ぬ。その奥の奥、二つの生命の相逢ふあたり神の姿を髣髴させられる所を慕ふのである。眞實なる戀の泉の湧き出づるほとり、こを誰が「痴情の戯れ」と呼ぶか。倫理の神はそこにも在さぬ筈が、などてあらうぞ。

友は友を呼び、心は心を惹き、靈は靈に傳へる。友と友との間に働く神靈の求心力、人の心は是を妨げる事あるとも、それは不撓不斷に相通ずる境を覓めて動く。私は友誼又は信義の間に、神の姿を見る無智たる民衆の間にも、偉靈に感動し、共鳴し、反應する尊いものがある。イエスが凡ての人心の底に「神の像」を想見したのは流石に卓見である。「心の友」としての偉大の典型をイエスに於て示されたのは感謝に堪へない。神靈に滿ちた人、誰人よりもよく顯した人、人になつた神、神になつた人、それはナザレのイエスである。その人に於て最も人間に接近した神を感じ、想ひ、且つそれと交はる、これにまさる人生の法悦はない。

「神は萬物の上に、夫を貫き、又其中に在る。」萬物を己に惹き又自らを萬物に引かしめる。宇宙を愛し又宇宙をして己を愛さしめる。その間にあつて大なる役目を演ずるは、人間である。人の心である、靈である。

宇宙も人生も共鳴に充つ吾々は神と偕に「共鳴の歌」を高らかに彈じ且つ謳はねばならぬ。

ヨセミテの夏

額賀鹿之助

世界の公園

米國にはナショナル・パークといふものが各所にあるが、ヨセミテは其最も大にして美くしい公園の一である。公園と謂つても上野や日比谷の公園の樣

なものではない、日光や箱根を幾層倍したやうな廣大なもので、「世界的」の形容詞は決して誇大でないといふことは行つて見て始めて首肯さるのである。

私は昨年の恰度今頃でした、數人の友人等と共に一臺の自動車を傭ふてフレスノの市を立つたのは朝の七時ごろでしたらう、百數十哩の途は仲々危險な場所も通つたが、山と謂ひ、谷と謂ひ、溪流と謂ひ凡て大陸でなければ迚も見ることの出來ぬ大きい感じを味ひつゝいよ／＼ヨセミテに着いたのは夕の五時過ぎであつた。

インスピレーション・ポイント

昔の俳人が松島の景勝を見て形容すべき詞を見出すこと能はずして「ア、松島や松島や」と絶叫したと聞くが、米國人はヨセミテの谿谷を一望の下に眺め得る地點をインスピレーション●ポイントと稱したのである。共に同じ感じを言ひ現はしたものであらう。我等が其所に立つたときには一同が言ひあはしたやうに只アッ、と打叫んだのである。研ぎすましたやうな花崗石の巖が天にそびえ、白雲が其中途に蟠まり、瀧の音が谷間、谷間から響いて來て、夕陽が峯の頂きを紫紅色に染め、天堂にでも入つたやうな感にうたれたのである。大自然に接したといふのは此感じであらう。ハーフ●ドーム(半堂宇)であるとかエル●キャピタンであるとか三兄弟の峯であるとか或ひはグレシャ●ポイントであるとか、いづれも三千呎以上の高さの大岩が左右に相對峙してゐるのであるから、自然の力、造物主の意匠が如何に大なるものであるかを驚かずして居られないのである斯る大自然の前に立つて初めて「ア、神は全能なるかな」てふ嘆美の祈りが口から自然に迸りいづるのである　一千二百三十四呎といふ驚くべき長さのヨセミテ瀑布の響は神の聲のやうにも聽かれる。此山の上に來つて何だか神に一層近くなつたやうな氣がするのも不思議でない。

人間の力も亦大

人間の力を以て自然を征服するのが文化といひ得るとすれば、其事實を此所にも見ることが出來るのである。此樣な奥山にこんな麗しい景色のあることを誰人が最初に發見したか知らぬが、こゝまで岩を碎き谷を渡ることの出來るやうにして人間の力も亦大なるものとせねばならぬ。三千呎以上のグレシャポイントの如きはそれこそ上から下まで一直線で辿い、よぢ登ることは出來ぬだらうと思ふと、それにさへ途をつけて馬で絶頂まで行けるのである。而も此の嶮岨な山の上まで自動車で坐つたまゝで行けるといふのは文化の御蔭でなくて何であらう。我等の宿つたのはカレー・キャンプと曰ふ天幕の中であつたが、立派なホテルの建物が幾つもある。しかし天幕の中が却つて面白い。何百といふ天幕が林の中に並べて造つてあつて其一つには二人づゝ寢むることが出來るやうになつてゐる。食事の時には共同の食堂に行つて五六百人も一緒にやる、夜には廣場に大きな焚火をして、其周圍に群がつて思ひ〳〵の面白い話をする、其中に活動寫眞が始まる、或ひは有名な人の講演のあることもある、余の聽いたのはヨセミテの谿谷の歴史についての講演であつた。大昔には此邊りはネバダ州から流れ出づる氷河の通路であつたといふことを余は其講演によつて知ることが出來た。成程さう聽かされてみると、あの岩が研ぎすまされたやうになつてゐるわけが善く解かる。さまさまの催があつた後に、三千呎のグレシヤ・ポイントの頂上から火の瀧が落ちる、その壯觀は又何とも謂えぬ、それは素より客を喜ばす爲めの人の仕業であるのである。

夜の寂靜

天幕の中に身を横たへてゐると實に靜かなもので遠くから聞えてくる瀧の音は魂を鎭めて永遠の寂靜を思はせる、時々足音がきこゆるかと思へばそれは妻を慕ひゆく鹿らしい。かゝる靜かなる處に一夜の眠りを取ることは、騒々しい都會生活の十年の疲

勞を癒やし得て餘りあるではあるまいか。

× × × × ×

夏を如何に過ごすべきかといふお尋ねをうけて、ヨセミテの樂しかりし去年の夏を思ひ出し、今年も出來ることなら又、行きたいといふ思慕の情が涌いて來ました。しかしそれは無理な願ひであります。

彼所に靜かに讀書し、雄大な自然の心と一つになり、夜の寂靜の中に神と一人になつて祈り、かくて俗惡な人間の世界から離脫した生活ができるならばどんなにか我等の心靈に新しい力が加へられるであらう。大いに世に活動せんとするものは、かゝる超越の生活を要するのである。かしこに往くを許されぬ身に取つては、せめて夢の中でゞもヨセミテの峯の上に遊ぶより外はない。

法律講話

婦人と法律

岡崎應介

第六　所謂憲政常道論

婦人參政權は未だ得られないが、其第一階梯たる婦人の政治的集會の自由は、漸く本年の議會に於て認められ、問題の治警第五條は改正せらるゝに至つた。之と同時に婦人の政治的雄叫びは漸次盛ならんとしつゝある矢先、突如事實其政策に行詰つた政友會內閣は瓦解し、其後繼內閣に關し所謂憲政常道論なるものが喧傳せられましたが、一體憲政常道論とは如何なるものでせうか？時節柄此研究をなすのは必しも無益ではないでせう。

新聞紙で見ますと、形式論としては、從來政府を組織して居た政友會內閣が倒壞したときには、政權は當然反對黨たる憲政會に移るべきだと述べてあります。是は立憲政治の母と云はるゝ英國の政治組織

が、有名なマグナカーターによつて君主の專制を廢し、等族會議が發達して議院政治が生れた。而してプレスビテリアンとインデペンデレトとの二派に分れ後之がホイグ黨とトーリー黨の二派となり互に政權を受授するに至つた。其内閣更迭の場合には日本の如く元老なるものの容嘴する餘地がなかつたのである。其後佛國に漸次發達したる自然法説、ルソーの民約説等の新思想は、大凡國家の權力は君主の獨占すべきものでない、蓋し共同生存は人類の天性である。此爲に國家は存立を全ふするのである。而して各國人は天賦の人權を有し、何人と雖之を侵害することを許さぬ、唯各人は其自由意思に基いて一定の社會生活をなすべき約束をなし、玆に國家と云ふ社會を形成したのである。然らば國家の權力は人民全體に屬し從つて民意に反して此權力を行使することは許されないのみならず、此權利を有する人民は其國の政治に多大の利害關係有るを以て、國政に發言權を有しなければならぬ。其發言權は議員選擧によつて行はれる。故に議員の多數を擁する政黨は、最よく民意の大勢を代表するものである。從つて多數黨議員が政權を握るのが當然で、其政策にして施す餘地なきに至つたときには、反對黨が之に代はるか、議會を解散して民心の歸向を見然る後多數黨に政權を委すべしと説明を加へらるゝに至つた。此政治的歷史及學説に則り、政友會内閣倒壞の後は自然其反對黨にして第二大黨たる憲政會が政府を組織すべきが當然であると云ふのが、立憲政治上の常道郎所謂憲政常道論である。尙常道論者は、大凡政治は公大なるべし、然らば後繼内閣は平常旗識鮮明なる反對黨の組織すべきは當然だと云ふ。此説の當否は暫く措き、法律家たる私は法理上から此問題を考へて見たい。併しながら法理上の問題としては殆ど無價値だと御承知願ひたいのであります。

法理論からすると、立憲政治と否とは、統治權行使の方法如何に據る。換言せば、三權分立と否とによつて區別せられる。三權分立論は有名な佛國のモ

ンテスキューが初めて稱へたもので、其後完成せられ、統治權の內容は立法、司法、行政の三權能に分たれ、其各權能は各別々の機關によつて行はれ互に相侵すを得ないと云ふのであります。就中人民を拘束する法律は、民意に出たものであらねばならぬ、從つて最も尊重すべきは立法權である。是婦人參政權などの叫ばれる所以であります。偖て議會卽立法府によつて造られた法律會計に基き行政府卽內閣が之を一般に行使する。其內法律のみは裁判所が主として之を司り、其判決命令卽ち司法權には他の何れも干涉を許さない。勿論事實上其抹稍に至つては必しも明確に分立して居ないが、原則として三權分立し互に相侵すなきに於て初て社會機能は完全正大は行はれ、國王の專制、少數者の橫暴を防ぎ得るのである。而して是天賦人權を保障する所以であります(此くて普選が何何に必要なるかを御推察なさい)

果して然らば、法理上の常道といふことは、三權分立の嚴なりや否やに存するので所謂憲政常道論なるものは政治的考察に於てのみ初めて問題となるのですが、殘念ながら本誌上では政治を談ずる自由を有しません。法理上は三權分立を常道とする故議員を以て內閣を組織することは形式論としては寧ろ憲政の逆轉であらねばならぬ。何となれば、如此は是立法行政の混交を生ずるからである。而して英米に於ては三權分立を憲政の常道とするが故に、國務大臣は議院に入ることとさへ禁ぜられんとしたことさへある。

偖て我憲法では、天皇ハ國ノ元首ニシテ統治權ヲ總攬シ此ノ條規ニ依リ之ヲ行フ(第四條)とあり、學說は統治權と主權と同一なりや否や、總攬シとあるは所有スとは異れるや否やについて論があるが、之は讀者の研究に待つこと丶し、兎も角も分立せる三權は天皇に歸一し以て妙味を發揮し、而して天皇も亦國政を獨斷專行なさる丶ことなく、必ず憲法の條規に從つて行使せらる丶旨を明にせられた。而して天皇ハ帝國議會ノ協贊ヲ以テ立法權ヲ行ヒ(第五條)議會

の造つた法律ヲ裁下シ其公布及執行ヲ命ズ（第六條）其公布及執行の命を受けるのが行政機關たる政府であります。即ち天皇ハ行政各部ノ官制及文武官ノ俸給ヲ定メ及文武官ヲ任免ス（第十條）とし、司法權ハ天皇ノ名ニ於テ法律ニ依リ裁判所之ヲ行フ（第五七條）裁判官ハ刑法ノ宣告又ハ懲戒ノ處分ニ由ルノ外其ノ職ヲ免セラルヽコトナシ（第五八條二項）と規定せられ、以て統治權行使の方法を明にせられた。是によつて我國政は三權分立の原則に從つてる事は明白である。而して我國は皇室中心主義の國家であり天皇ハ神聖ニシテ侵スベカラざる（第三條）は敢て論ずるまでもない。神聖不可侵なりとは統治上無責任なることを明にせられたのですが、然らば統治上の秕政に對する責任は何人が負擔すべきか？　憲法五十五條は國務各大臣ハ天皇ヲ輔弼シ其責ニ任ズとし大臣が其責に任ずる爲には國務に關する詔勅は國務大臣の副署を要するものとし、必ず大臣の手を經て行はれたことを明にする如になつて居る。國務大臣と各省大臣とは法理上其性質を異にしますが、即ち各省大臣としては一行政長官にすぎず、天皇の命令に從ふもの故其責任は天皇に逆るが、天皇は神聖不可侵で要するに是國務大臣の輔弼の足りなかつた爲で、それ故國務大臣が其責に任ずるのである而して實際上は各省大臣は同時に國務大臣である。其所に妙味が存するので、此爲に內閣の更迭が行はれ民心を一新するのである。而して我憲法は總て七章七十六ケ條より成り、第一章天皇第二章臣民ノ權利義務第三章帝國議會第四章國務大臣及樞密顧問第五章司法第六章會計を主たるものとし第七章補則として憲法改正の手續を定めてある。以上の如くにして形式論から見れば、憲政の常道論は政治上の實體論であつて法律上は唯天皇の御信用ある人でさへあれば、何人が內閣を組織しても差支ない。寧ろ政黨內閣なるものこそ常道を逸したものと考へねばならぬ。玆に於て近來英國などでは、政黨內閣論が衰へて人物本位の內閣論が盛になり、之が實際に行はれつヽあるは、既に讀者諸姉の

御存じの通りである。然るに我國に於て尙政黨内閣論が稱へられ、所謂憲政常道論が行はるゝのは、惟ふに政治的自覺の未だ幼稚なるものあり、政權は常に小數特權階級の手を放れず之が爲には、官僚思想の撲滅を期待し、政權のデモクラライズする必要がある政治上の理由に基くものに外なりません。

序ながら上述の如く我憲法上元老とか準元老とか申すものは存在しません。唯憲法五十六條には、樞密顧問は樞密院官制ノ定ムル所ニ依リ天皇ノ諮詢ニ應ヘ重要ノ國務ヲ審議スとあり、現在形式上内閣各員の辭表奉呈と同時に天皇(攝政宮)より御諮詢あり之に對し樞密顧問が御應へを申し上げ、之を參考として天皇が、御意に召した人物に國務大臣なることを御命令遊ばさるゝ如になつてると存じますが、夫にしても一二の顧問、所謂元老のみにて此重大國務を審議し御應へ申上ぐるは果して憲法上から考へて妥當であらうか？法理上から考へても、政治上から考へても私は大なる疑を持たないでは居られない。

× × × ×

◎前號に娘の涙と題したS子の脫走とN夫人の庇護については、尙場合によりS子の親權者からN夫人に對し親權行使の妨害者として小女引渡請求訴訟を起すことが出來る。事件の内容は幾分異つて居るが大審院は「幼兒が親權者たる某の意に反しA方に居住し、又Aに於て某の意に反して之を認容するの事實は、某の親權行使を妨害することと自明なるを以て右幼者は辨別力の有無又は其自由意思に出たりと否とに拘らず某は……Aに對し右幼兒引渡を求むる權あり」と判決した。判決の當否は具體的事實問題と對比して考へねばならぬ。

◎如此判例あればとて、直にS子は實家へ歸へる外道なしと悲觀するに及ばないと存じます。

斷片五つ

岡崎小文

○

無果花の葉末に
大なダイヤの玉が一つ
黄金色に銀色にきらめく
風にゆるゝまゝに
キラ〳〵輝くその玉
平凡にあいた人の眼は
異象を見つけてはしく燦く

○

緑したゝるポプラと柳
一村時雨に天の露を吸ふて
生き々々と輕くほゝゑむ
夕風にゆらいで
電燈の光をあびて
天の力と人の智慧に
神秘の姿色濃く
勞れた子の胸をやはらぐ

○

一切を忘れて
たゞ姉妹達に幸あれと
願ふ心は愛するが故に
勞れをおぼえない
くしき力よ愛の力よ

○

美しい眼の持主よ
もつと其眼を輝かす爲
お出で下された人を知つてますか
優しい心の持主よ
もつと優しい心に伸び行く爲に
お出で下された人を尋ねましたか

醜い姿の我友よ
みにくきものを變へて下さる爲に
お出で下された其人に逢ひましたか

おいで皆おいで
待つてゐらつしやる
美と眞と善をあなたのものにする爲に

○

忘れな草誰のつけた名か
お汝にはふさはしい名
五つの花瓣をぱつと開き
御空の星のまばたくやう
涼しい瞳にひきつけられる
澄める御空の紺青か
千尋の海の紫か
その藻くづの底の
眞玉の光か
ゆかりの紫はしく笑む

夕べ星くづまたゝきに
白いベットの其中に
忘れもやらぬ忘れな草
永久の生命を此胸に

平和博覽會の時の御報告心より感謝して拜見しました人手の不足な所をこんなに大きな御働を爲すつた事は皆樣幹事方の御協力と御熱誠による事と嬉しく思ひます。委員方もこんなに一生懸命に責任を帶びて御働き下さるやうになつた事をも喜び日本女子靑年會の將來に大なる望を屬し御祝福のいよ〱豐ならん事を祈ります。周圍の事情に囚はれず事業に呑み込まれずキリストの御精神が絕えず活躍し、指導して居ますやうに祈つて止みません

米國にて　堀　順子

聖書研究

羅馬書講解

大阪　武本喜代藏

其二、人間の罪惡

内譯

(一)　一般人類の罪　　二章一ー一六
(二)　ユダヤ人の責任と罪　　同一七ー二九
(三)　ユダヤ人の特權と無能　　三章一ー二〇

ロマ書を大別すれば一章より十一章迄が福音に依れる靈の救で、十二章以下が救はれたものゝ靈的更生を述べたものである、罪人が救はれて榮光化する美はしい變化が其花實で、根本は福音的救ひである則神が其子イエス、キリストに依つて我らを購ひ、不義なる者を義とし給ふて福音こそ其美果の依つて生ずべき根本である。

が然し救の根源は先づ各人己れの罪を自覺することで、悔改のない所に救ひはない、自ら義人と稱するパリサイの徒が救はれないのは當然である、放蕩兒の兄、則今日の所謂道德家、修養者などは飽く迄自らを義として神の救ひを拒み、若しくは馬鹿にする、どうして彼らが救はれよう、救の第一要件たる罪惡感を缺いでゐるのである。

パウロは三章二一以下に贖罪の大教義を説くべく先づ一般人類より、更に神の撰民たるユダヤ人の特別の罪に付いて論じ此に峻嚴を極めてゐる、「義人なし一人もなし」とは何たる猛烈な筆法であらう、誰

かゝる神の法廷に立つて自らの無罪を主張し得るものぞ、王も學者も聖人も、義人も盡く罪の宣告の下に置かれてゐる、一人として其前に首を擧げ得るものはない、彼らは一々神の御前に引出されて、一々有罪の宣告を受けてゐる。

キリストは山上説敎に於て律法の心的解説を試み玉ふた、彼に於ては人を怒る事が直ちに殺すことである、淫慾を燃やすことが已に姦淫したのである、かくの如き嚴格な律法の前に傲然罪なしと稱し、自ら義人呼ばはりすること程笑止なことはない、その事自身が則僞善である、罪惡である、神は萬人を救ふべく先づ彼らを罪の下に閉ぢ込め玉ふた、則彼らをして一人も罪なしと云はざらしめんとの遠謀神慮である。

（一）一般人の罪（二章一―一六）

基督教は何所迄も信仰である、信仰より出でゝ信仰に終るのである、が然し倫理と矛盾はせぬ、否信仰はキット善行を伴ふ、信仰の山に登れば登るほど善行は自ら從ひ來るのである、善行を伴はない信仰は迷信である、其信仰が果して神より出でしや否やは結果で判斷する外ないのである。

パウロは此に神の峻嚴な審判を説いた、神は慈母であると同時に嚴父である、彼は罪人を罰し給ふ、特に自ら罪を犯しつゝ他を審判くやうな僞善者を寬假し玉はない、神の審判は現世にもあるけれど、未來に於て尤も嚴正である、神は飽く迄公正である、善人に酬ゆるに永生を以てし、惡人に對するに永死を以てし玉ふ、其間少の偏頗がない、此未來的賞罰を信じてこそ現在の人間の行爲は正されるのであつて、未來信仰の薄ぐと共に人間は自ら墮落する。

神はモーセに依つて人間の守るべき律法を與へ玉ふた、ユダヤ人は其律法に照らして審判されるのである、が然し律法なき時代又は國民は良心で審判かれる、良心が律法の代用である、「盜む勿れ」との誡を持たない時代でも、良心は盜む事の不德であることを自覺する、從つて其刑は免れないのである、が

然し審判は「神イエス、キリストをもて人のかくれたる事をさばかん日に成るべし」である、かの大なる日、キリスト來つて全人類を審判き玉ふ時、ユダヤ人を初じめ、凡ての國民は神の正しい最後の審判を受くるのである。

（二）ユダヤ人の責任と罪（二章一七―二九）

「多く與へられしものは多く求めらるべし」ユダヤ人の如き、神より特別の恩寵を蒙りしもの丶責任は重且大である、ヤコブは「わが兄弟よ專ら多く師となるべからずそはわれら師たる者の審判を受くること尤も重しと知ればなり」と云つてゐる、然るにユダヤ人は愚なる者、則異邦人の師と自任してゐた、彼らは神より律法を與へられた、割禮を以て神の聖民とされた、彼らは萬國民に優つて、特に靈的、宗教的に惠まれたものである、彼らの地位は高い、從つて其責任も又重大であらねば成らぬ。

然るに笑止な事は彼らが自ら任じて「瞽者の相、黑暗にをる者の光」と稱へながら其一つも實行し得ないことである、依然として彼らは瞽者であり、暗黑であつた、律法や、儀式が人を活かし得ない事彼らが靈に由つて生れ、心に割禮を受くる迄一も實行し得ず、其如何に道德的に無力であり、無能であつたかは想像に餘りがある。

人若し律法や、道德に依つて救はれ、自力で完全に其途を歩み得るものなら、十字架の死は徒爾でキリストの血は無用の長物であらう、從つて人間は自ら誇り、神の惠みを蔑視することであらうけれども事實は之れに反し、何人も完全に道德を實行し得ない、人を敎へて自ら行ひ得ないのである、そこに煩悶がある、衝突がある、救ひの必要は此から起つて來るのである。

（三）ユダヤ人の特權と無能（六章一―二〇）

前章のパウロの所論に由れば律法も、割禮も益なく、ユダヤ人の誇とする所盡く價値なきが如くであるからパウロは之れに答へて決して然らずと云ひ、先づ第一の長所は神が其諭し、則默示を彼らに與へ

玉ひしことであると告げ、更に語を續いて第二第三と書かんとして議論遂に他にそれたるが如き觀がある。

ユダヤ人はキリストを信じなかつた、それゆへ神の律法は實行されず、アブラハムへの神の約束も反古に成らんとしてゐる、然らばそれは神の不信であらうか、否々萬人凡てが僞つても神は眞實である、斷じて僞りがない、神の約束が違ふたのではなく、ユダヤ人の不信仰がそを無益に歸せしめんとしてゐるのである。

パウロは更に五節に於て疑問を提出し、ユダヤ人の背反は神が義を現はし給ふ機會と成つた、則ユダヤ人は不信にして神に背いたけれども、神は義にして永へに變り玉はない、之れ仍ち彼らの不信不義が神の信を現はす折りと成つたのである、然らば神はユダヤ人に感謝すべきではないか、其ユダヤ人を罰するのは神の不法ではなからうかとの疑問である、之れに對しパウロは斷乎として排斥し「さること有らじ」と云ひ、「さること有らば神如何にして世をさばかんや」と云つてゐる、神が若し不義なるユダヤ人を罰せぬならば、どうして世を審判くことが出來るであらうと。

九節より又本論に返へり、「然らば如何、われら勝れるか決てなし」云々と云ひ、ユダヤ人も、異邦人も均しく罪の下にあるのだから、ユダヤ人だからと云つて毫も優つたことはない、罪の力の前には誰も彼も奴隷である、律法も割禮も役には立たぬ、何があつても罪に打勝つ力がないから誇るべき理由はないと云ふのである、十節以下詩篇を引證して人心の如何に腐敗せるかを明示し、之れでもか／＼と謂ふやうに一般人特に僞君子、僞道德家を叱責し、彼らの口を塞がしめ、何人も神の前には罪人なりと告白せしめ、更に二十一節以下に到つて律法以外に神が人を義とし給ふ新たなる途を示さんとしてゐるのである。

少女之欄

島の乙女（八）

村岡花子

突然、彼の全身は水を浴びせられたやうな戰慄を感じた。此の男が、自分の愛して居る人の父親である。此の人の娘を自分は世界中の誰にも勝つて愛して居るのだ。ヘロルドは力なく壁に倚つて居た。

「こんな事さへなかつたら、私は、あなたの爲めに今迄通り働いて行けたのです。いつかは全部を辨償する事が出來ようと樂しんで居りました。

今だつて、少しは出來て居ります。私の姿を見て下さい。子供達の様子を見て下さい。私共の生活を見たら、私がどの位迄、身を詰めて、貯金をして來たかは御分りの筈です。兎も角、私は、自分の盜んだ——噫、何といふ厭な言葉でせう——盜んだ物の幾分かは御返しが出來る丈けに、貯へが出來て居ります。あなたが御立ちの前に——私が立つ前にです、無論、秋は此處を出ますから——それを御渡ししませう。」彼の呼吸は怪しく亂れて來た。

ともすれば、涙に曇らうとする眼を、彼は節くれ立つた手で、こすつた。マーチが知つて居た昔なら其の手は、唯、ペンを取つての勞働より他にはしなかつたのだつた。

「私が、あんな不始末を働いた時には、丁度、あなたは外國へ旅行中でした。パイスはあの通りの人間です。血も涙もありません。時さへ與へて呉れたなら、必ず元の通りにするからと、私は一生懸命に賴みました。然かしあの人には盜人は盜人で、それ以上には、何の酙酌もありません。私は牢へ行く所だつたのを、ギルキンス判事がパイスを止めて下さいました。——パイスとは舅の關係でしたからな—。」

ヘロルドは其の當時を再び眼前に見るやうに、言葉を切つた。

「世間は、一度あゝいふ失敗をした人に對して實に

冷酷です。私は決して生れ附き不正直をやる人間ぢやなかつたのです。誰でも私と同じやうな境遇に在る人の言ふ事だが、實際、私は元通り返して置く積りで、手を附けたのでした。どうして、あんな事をするやうになつたか、それは神丈けが知つて下さる私の苦しい事情からだつたのです。ニューヨルクに居て、自分が馴れた仕事をして居れば、返濟の出來ない事はないと思つたのですが、パイスは承知しません、如何でも他國へ行けと言ふのです。他國へ行つたんぢや、私には立つ瀬はありません。

然し、パイスの言ふ事を聞かなけりや、起訴するといふのだから、仕方なく、あそこを出ましたが、不運つゞきの中に、家内は死ぬ、私はノルフオルクで人夫のやる仕事をして居る所を、圖らずギルキンス判事に見附つて、それから、此の島へ就職させて貰つた事情です。」

マーチの表情はすつかり變つた。「何だつて君は假病を使つたんです？」

「その理由が分りませんか？」

「僕が君を追出すと思つたんですか。」

「其の通りです。」マーチは一足、ヘロルドの方へ進んだ。「今夜は何故來たのです？」「ヘロルドはキッとなつた。

「總べてをあなたに知らせるのが、私の責任だと思つたからです――娘にも、秘して置くべき事柄ではないと思つたからです。」

「成程、わかりました。僕が――」マーチは言葉を切つた。ヘロルドは齒を喰ひ縛つた。

「構ひません、言つて下さい、詐僞の娘となんぞ結婚する人は有る筈がありません。唯、之丈けは覺えて居て下さい――私が其の金のたとへ幾分なりとも返す爲めに、どんなに苦勞したか、之丈けは覺えて居て下さい。七千弗丈け――私が取つた物の中の之丈けは、――今返します。今夜此處で、小切手を書きませう。」

彼はテーブルの前に行つて、小切手帳を出して、

ノルフォルク銀行へ七千弗の小切手を書いた。

「此處にあります。さあ、取つて下さい。此の邊の松を買つたり、賣つたりで、大低は出來た金です。あなたには知られずに、此の離れ島で、あなたの爲めに骨折つて暮した間には、少しは罪滅ぼしが出來たやうな氣がしました。」へロルドは淋しく笑つた。

「無論これぎりで、出ます。殘つた分は、どうにかして、少しづゝ返濟します。」

「返濟の道は唯一つしかありません。あなたに適した仕事をするより他に、方法はないぢやありませんか。」

「そんな事が出來る筈がありません。」

「何故出來ないのです。」

「たとへばニューヨルクに位置を探す事が出來るとしても、其處へ行く丈けの金はありません。」

　マーチの顔には平生の元氣が出て來た。「馬鹿々々しい!! 五年前に、君の口から、之丈けの話が聞けたのだつたら、僕は決して、君の邪魔をするのぢやなかつた。唯パイスの口からしか聞かないのだから、無論、彼の人の立場丈けしか解らなかつた。僕は今ぢや、パイスとは全く關係の無い事業をして居るんです。だから何にも彼の人が君の邪魔をする心配は無い、ねえ、カルトニイ、今の場合、君としては、パイスに借りた分丈けを返したら可いんだ。今の此の七千弗さ、差當り、これ丈け有るんだから、不足の分は僕から君に立替へて置かう。これからは僕と一緒になつて、もう一度奮闘するさ。正直な話が、あの時、君があんな風に使ひ込みさへしなかつたら僕等は今時分ぢや、隨分な利益を見て居られたんだぜ。實際、馬鹿な事をやつちやつたものさ。然し、まあ、濟んだ事は濟んだ事として、如何だい、もう一度世に出る決心は附かないかね。」

「あなたは、何を言つて居なさるか、ほんたうに、承知で、言つてなさるんですか？ 冗談ぢやないのですか？」

「何の冗談どころの話ぢやありやしない。僕は眞面

目に相談してるんだぜ、君。

　過ぎた事は過ぎた事さ。君も一時の迷ひから、充分に苦しむ事は苦しんだから、もう好い加減で、こんな苦勞は切上げても可いよ。カルトニイ君、すつかり、やり直さうぢやないか。過去を知つてるのはパイスと僕と君丈けなんだ。ギルキンス判事は死んでるし、もう之で何も彼も濟んだんだ。

君、ジムは立派な息子だね。ありや將來、素晴しい人間になるよ。僕あの子が大好きさ——僕の弟だもの、モレイの事では——」

　マーチの言葉はいきなり、此處で切れて仕舞つたツイと横を向いた、稍あつて、

「カルトニイ君、こんな所に何時迄くすぶつて居たつて仕樣がないよ。モレイの言葉ぢやないが、全く此の駒鳥日和で、何一つ獲物の取れる目當はありやしない。皆で揃つて、北部へ歸る事にしよう。」

　二人はそれから又庭へ出て、星の下で、なほも詳しく將來の計畫について相談した。內部へ入つた時には、夜が白々と明け初めて居た。マーチはカルトニイと快く握手した。

　夢見るやうな心持でカルトニイが階段を上つて行くと、モレイの部屋がスウと開いて、モレイが出て來た。

「父樣、如何なんですの？」

「モレイ、モレイ、何にも心配する事はない。大丈夫だ。あれ位の青年は中々多勢は無い。實に立派な人間だ。」

「私が言つた通りでせう？　ねえ、お父樣、私はあの人を信じて居ます。ほんとに安心しました。」

　モレイは靜かに、マーチの部屋をたゝいた。戸を開けに來たマーチの耳に優しく囁いた。

「お休み遊ばせ。私は、どうぞして、あなたが望んでゐらつしやる通りの者になれるやう、一生懸命にお祈りいたします。おや、左樣なら！よくお休み遊ばせね。」（をはり）

本部便り

五月廿四日の夜は支那女學生一行歡迎會を催したるが中央委員の方々も多數出席ありたり一行は「いろ〳〵の會に招ぜられたが、こんな樂しい會はなかつた」と大滿足なりき。

五月卅一日本部年會を開く相憎の雨の爲用意をされたデンナーは人待顏それでも食後雨をおかして勇しく出席されし方もありし爲定員に滿ち諸種の報告、將來の計畫議事行はれたり。

其主なるものは

一去る日本全國基督教議場の大會にて將來日本全國基督教聯盟の設立せん日には女子青年會も加盟し代表者を出すの權利を得たり從て責任も亦附隨するものなり。

二修養會の場所と建築は明夏迄に決定し設工させたき事。

三此の秋より錦町の事務所を移轉させたき事。

四本部に本邦人の働人を增加する事。

五新しき委員を數名得る事。

六本部會館建築の計畫を今より立つ事、此件に付委員の設けられん事。などなりき。次に田川大吉氏が日本の諸團體聯合機關設置につき計られたり其大略左の如し。

ワシントン會議の National Council for Limitation of Armament は一時的のものであつたが十二月に入つて此の目的を達する爲に本運動を繼續する事に決した。日本でもかゝる團體を作つてくれる事は出來ぬかとの相談を受けた。若日英米三ヶ國同一目的を有せば、此の目的を達するに有利であると考へるとの話であつたが自分は、主義に贊成するもかゝる團體なき爲果して受入れられるや否や不明であると答へて置いたのである。それで歸朝後女子青年會、婦人矯風會、婦人平和協會、青年會、大日本平和協會國際聯盟協會、軍備縮少會、國際基督教會同盟など是等各團體を聯合する機關を通じて是を計らんとし

て居る既に承諾を得た處もある。

各團體から一名づゝ委員を擧げこれが統一の機關をつくる計畫をして居る。

此團隊で軍縮の方法を講じるのである。戰鬪艦半減と定まつたが是れでもつて猶滿足せず進んで戰鬪艦全部廢止に到らせ度いのである。若自衞丈であれば戰鬪艦は不用である。次に徴兵制全廢止、是れは不可能なる故陸軍半減にしたいと申出たそれでよいと承認されたそこで本運動を起さんとするに到つたのである。

國際裁判の組織が成立するならば是れによつて、平和裁判を行ひ得るのであるかゝる目的を有する聯合機關が出來上るか否や諸姉の一考を煩し度いのである。

本問題は次回中央委員會にて討議回答の旨を告ぐ

六月十七日東京横濱本部聯合幹事會を大森池上の今西氏邸にて開催す。入梅の天氣を遺憾なく發揮したる日なりき。しめやかに降る雨をよそに百回も世界的大會に臨まれしと言ふ、しかしながら童顏輝く、ミステーラーより、支那大會の印象、理想的幹事とは如何人かなどの有益なお話を聞き午後は所謂青年會式の面目を發揮した諸種のゲームに汗をしぼり忙中閑ありの氣分を充分味つて四時散會今西氏の御好意を多謝す。

キャベーヂ料理

坂本花代

コールド スロー

キャベーヂを小くきざみ、塩水に浸し置き、お布にて水氣をとり前號にて御紹介致しましたボイルド、ドレッシングにてあへて出す

ボイルド キャベーヂ

キャベーヂを小くきざみて	コップ四杯か五杯
脂肪(バタが一番よろし)	大匙二杯
酢	大匙四杯
玉葱を薄く切りて	一個
塩	茶匙一杯
胡椒	茶杯四分の一
砂糖	大匙二杯

(キャベーヂはきざみて水につけて置く)

以上の物を全部鍋に入れ混ぜ一時間煮、温き間に食卓に出す

本部會計報告

御寄附金

金廿五圓也（維持費廿五口五月分御拂込）	河井道子氏
金壹圓也（同上一口）	加藤高子氏
金五圓廿（同上一口五月より九月まで）	佐藤榮子氏
金參圓也（同上一月より三月まで）	村津とく子氏
金五圓也（同上五口五月分）	松岡鎭枝氏
金壹百圓也（負擔金五月分）	東京女子青年會
金拾圓也（同上）	横濱女子青年會
金拾圓也（御寄附）	加納たつ子氏
金五圓也（同上）	松田氏
金五拾圓也（河井幹事旅費として御寄附）	弘前女學校青年會
金參拾圓也 河井幹事講演謝禮として御寄附）	同上
金參拾圓也（同上）	遺愛女學校青年會
金拾圓也（同上）	尙絅女學校青年會
金貳拾圓也（同上）	母の會ミス、グットウキン

特別會計報告

指定献金

金貳百五拾圓也（支那大會の爲）	ドクターマット
金貳圓也（同上）	田中正子氏
金貳圓也（同上）	遠藤八重子氏
金壹圓也（同上）	今西糸子氏
金拾八圓六拾錢也（萬國本部負擔金）	プール女學校青年會
金拾圓也（修養會土地の爲）	成澤たへ子氏
金五圓也（同上）	荒川花子氏
金貳拾四圓六拾貳錢（同上）花賣純益	札幌女子青年會
	菅原ライ子氏

博覧會々計報告

（自五月廿一日至六月廿日）

御寄附金	七七六、三六
雜收入	三、二五
小計	七八〇、六一
累計	一六、七八五、一一
支出	一〇三五、二九
累計	一六、七四八、四八
差引殘高	三六、六三

支出內譯

俸給	七〇〇、〇〇
保險金	一五、〇〇
設備費	一四四、六〇
クラブ費用	三八、一二
裝飾費	二四、四二
印刷費	三〇、七〇
宗教部	一六、五七
電話料	、四〇
文房具代	、九八
雜費（御禮を含む）	六四、五〇
計	一〇三五、二九

東京基督教女子青年會報告

(一)六月二日幹部委員會にて選擧の結果、會長志立タキ、副會長西野きみ子、會計小室美惠子、書記内池よね子の諸夫人になりました。

(二)五月二七日、聯合女子競技會第一回の蓋開けをお茶の水の女高師のグラウンドで試みました、碧空一點の雲もなき絶好日和、參加せる八學校の選手は初夏の寬濶な運動服甲斐々々しく今日の榮冠得んものと集まりました二百餘名の選手は各自應援團に擁せられたので入場者三千名は色取々のはたを持つて四重五重に運動場を圍ひ手に汗を握りしめました、定時の一時打つと共に、五十碼豫選競技に青年會の湯本鎭枝孃の第一着皮切りに、順次棍棒置かへ、バスケツトボール、ポテトーリレー、徒歩競走、走り高跳などの競に「我こそと意氣込む選手「勝て」と願ふ應援團とに現場は非常の緊張でありました、時きつては一度に拍手する響なだらかな芝生をすべつて通りへと流れ出ます別天地は暫らく續きました、今日の榮冠は第一高女の手に落ちました、委員長棚橋源太郎氏の無事であつた事、之が日本の婦人會に一新起源を殘した意味で場の挨拶終つて賞品授與の後東京基督教女子青年會とほられた鮮かな銀盃は志立タキ子夫人の手で授與されました最後に日本體育協會長岸博士の挨拶あつて一人の負傷者なく非常な期待を以て東京に於ける最初の記錄を殘して四時半終を告げました、カツプと文部省から送られた花環を圍んでニコニコ顏の最優勝者の胸中はどんなでしたでせう? 因に參加者は第一高女、お茶の水高女、東洋英和、女子學院、自由學園、淺卓實科、頌榮女子青年會。

(三)六月六日慰勞會を志立氏の宅にて開かれました午後四時から、第二回クラブ競技會が午後五時半から競技數八點を以て開かれました、第一回の優勝者ハーブエストの手から優勝旗は體育クラブに落ちました體育對新設のTSクラブのバスケトボールは見

物でした食事後九時十五分前散會しました。

六月二十三日午後六時半ブルーバードの主催でレコード音樂會をいたしました目的は、夏期修養會へ代表員を送るため純益は六十三圓でした。

七月一日より九月中旬迄例年の通り休養所を設けます此度は房州保田で景色も此上なく休養には此處に越す處が御座いません、誰方でも歡迎致します。一日の會費二十錢、食費六十錢で七月中は自炊で御座います。兩國から汽車で保田驛で下車往復三圓で御座います。

神戸基督教女子青年會報告

彌生とは名のみで、白いものがちら〳〵する頃御上京であつた大呑幹事はその責めを全うされて五月廿九日午前九時十五分といふに、懷かしい姿を我神戸に再び現はされました。慈母をなつかしみ迎へる樣に、フリジヤ倶樂部とリリー倶樂部と合併で歡迎會を催しました。それは温かな友情の發露でございました。ミセス、ウッド、六月二日朝御來神、相澤姉と共に女工の爲めに活動を開始されました。

六月五日朝、相澤けい子姉を迎へ、館内賑やかになりました。姉はミセス、ウッドと共に工業部の働をされます。

六月上旬、神戸女學院女學部、四五年有意の方々によつて倶樂部が生れました。シス、チヤペツル指導の任に當られてゐます。

六月九日十日兩日四回に分つて、西野貞子女史を招聘してさゝやかな修養會を開きました。九日午後二時より「修養と理想」といふ題の下に、過度時代にある婦人の修養、進むで理想、玆に根底を置かれ修養の定義より説き、見聞せらるゝ處を忌憚なく發表せられました。午後六時半第二回目が開かれ、謙遜なる態度を以つて「職業婦人と宗敎」と題して有益な講演をなさいました。聞く者感喜に震へ希望に輝いて散會致しました。十日午後二時第三回を開きました　夜來の雨は定刻に入つて暴風さへ加は

り、森羅萬象悉く雨に敲かれ、風にゆられ見るも痛ましい光景でございました。然し熱心なる姉妹方は强雨を侵して來會せられました。この日は「婦人の自覺と家庭といふ現代に尤も適切な題材で、俗的自覺より靈的自覺に說き及ぼされ愛に不足せる家庭に反省の一矢を與へられました。六時半第四回開催、「何を求むるか」その說かるゝ師と、聞く私どもと同じラインに合して、「來りて見よ」と仰云つたキリストの言葉を通して把握すべきもの何なるやを首肯されました。溫情溢るゝ女史の言葉は私どもの心に强い印刻をしないでは置きませんでした。

六月十一日役員選擧を行ひ本會本年度の幹部委員として左の諸姉が當選されました

會長　織田　安子姉　　兒玉くみ子姉

副會長　伊藤野玉枝姉　　松尾なつき姉

書記　木村　春枝姉　　中村ならえ姉

會計　鴨田ます子姉　　西川　悦子姉

足立　愛子姉　　野口いわ子姉

長谷場まさい姉　　野間　菊子姉

石井喜代子姉　　大島　政子姉

磯部とよ子姉　　ミスローイスミス

宇佐とき子姉　　塚本ふし子姉

大阪基督教女子青年會報告

□眠つて居た魂が醒めて何物かを要求し出す初夏の候となりました。幸米國に御旅行中の中路先生が御歸りになりましたので聖日の午後先生を中心にして靜かな靈交の集ひを催す事になり既に過日日曜日其第一回を開きました。會の後の皆の顏には何となく落着いた靜な輝が殘つて居るやうに見えました。出席者は十人程、至つて打解けた集りでございます。聖書の組は相變らず百島先生の組が一つと淺井幹事受持の求道者未信者の爲の組で一つあります。若い人達の中になか〳〵眞劍にいろ〳〵の問題を考へて居る人があつて時に其人達の發する質問に反つて敎へられる事があります。

□教育部は土地柄上やはり夜學の方が盛です。夏休中も昨年の通り希望者の爲續けて行く計畫ですが七月五日の終業式で一先づ今學期は切り上げます。七月一日の土曜日には教育部西洋裁縫の組の方々が中心になられて小規模のバザーを開きます。

□今年の總會は募金の爲め少し遲れましたが來る十七日午後二時半から最近歐米を巡つて歸朝されました星野須磨子氏中路ちか子氏ミスハワードの歡迎會を兼て開き星野、中路兩姉の歐米視察談を伺ふ筈になつて居ります。

□新進氣鋭の高昌音羽氏を商工部幹事として新に迎へ得た事は當會の大なる喜です。同氏は當會創立當初からの會員ですから會の歷史に就ては生き辭引です。九月迄は鳴る腕を抑へて募金の事等を手傳つて居て下さいます。昨秋ミセスウッドが來阪せられた結果として商工部の働には可成有利な端緒が開かれて居る事でもあり委員も揃つて居りますから同部の將來には私ども大なる期待を有つて居ります。

□募金運動は未終局を告げません。種々の原因から豫定の通りに行きませんでしたので委員會は三年前其筋に屆出た期日（大正十一年十一月）迄此運動を續行する事に決しました。

キャベーヂ料理

坂本花代

サアーミルク　グリドルケーク

メリケン粉（篩にかけて）　コップ二杯半
鹽　茶匙半分
サアミルク　コップ二杯
（味をたがへ少しかたまりかけた牛乳）
ソーダ　茶匙一杯と四分の一
卵　一個

メリケン粉、鹽、ソーダを混ぜてよく混らすために、篩にかけて牛乳とよく打ちたる卵を加へ、匙にてこれを鍋を火にかけ脂肪を敷きし中に入れ、片側燒き、泡立ち燒けし時返して他の側を燒き、バタをつけメープル、シロップ（砂糖の汁）をかけて頂く。
これを大きく燒きて、ジヤム又はゼリーをしき、くる〳〵卷き切りて頂くも宜し、これを獨逸パン。ケークと稱す。
グリドルケークをパンの代用品として朝食の時頂くも宜し）

學生部たより

東京女子大學女子青年會

どうしても、私達の學校に殊に基督敎主義を標榜してゐる學校にもつと宗敎的精神を色濃く染め出さなければならない。私達新らしい役員が選擧され、學年が改まると共に、そういふ決心そういふ聲は方々に聞え出しました、それには、どうしたらいゝか、私達の問題は先づそれであつた。

行つて、祈らなければならない、ひそやかな祈りの後の活動でなければならない、多くの人の意見は一致した、こうして前からつゞけられてゐた土曜日の早天祈禱會は尙熱烈さが加へられて七時半からの早さにも係らず、殆んどいつでも二十人を下らないほどの熱心さ、學校のために會のために、會員等はいつもそれをまごゝろこめて祈つた水曜日の例會もいつも緊張さがみえて、感話會、祈禱會等の時には、私等はいくたびか泣いた、泣けるほど求める心と、求められる會の精神とがぴつたり合つた。

殊にこの四月、北京の學生聯合大會に會長・福井榮子氏を送つてから、にはかに會の氣分はまた、一段の緊張味を加へて來た。「私達にはまだ多くの爲すべきことが殘されてゐる私達の魂の目をもつとよびさまさねばならぬ」會長の言葉は、會長自身のみの言葉では無かつた、確かに何ものかを通じての私達へのするどい暗示であつた。感じやすい、燃えやすい私達の心はどうしてか靜かに平然として居られやう、たとへそこに、ともされた火はかすかな弱さであらうとも、數の多さは暗いやみよを明るく照す、そこに會の會たる生命がある、一人一人の祈りの聲は如何に低くとも「會」として猶然立ち上る時の力は強い。

先づ目さめたのは共勵部である。この部は盛んに信仰の炎を燃すための油を注ぎ始めた、前から「バイブルスタデーなるものゝ必要」を心に掛けてゐた、だけに殆んど全く自發的に卒先して、こゝに、宗敎問題を中心とする、ディスカッションクラスを起したのは、近頃珍らしい然して興味あるものであつた

それは指導者なるしかつめらしいものを全く拔きにして新入生のみが、三組はどに分れて中に上級生二人づゝを交へて或る提出された問題に對して討議するのである。

「何をかエクスタシーといふ」とか「如何にして我々はベターライフに進み得べきか」「友情とは何」等と種々の方面から入つて行くのであるといふ。

けれども、これは、初めの中は新らしい試みであるだけに可成多くの人の疑問ならうけてゐた「出來るかしら」「つゞけられるかしら」と、でも今はそれらの人の聲を全く讃嘆の聲に變へるほど、眞劍さを以つて、ぐんぐん續けてゐるのをみて、うれしい。

この他に、ミスアレキサンダー、ミスリツトンの英語のバイブルクラス二つ、山本彌一郎先生のバイブルクラスを一つ、それぞれ盛

社交部でも樣々な活動を始めた、

四月の初めに新入生の歡迎會は例の如し

病院訪問、サンセツトパーテイー、本校新築地荻窪へ遠足等が催された。

殊にあの病院訪問の時の印象は忘れたくない。

中野までのあのガタ自働車の中で折られじと懸命にかばふ鉢植の

花又切花を手に手に持つて降車してからのあの長い救世軍病院までの野みちを又枯すまじと時々に、あの清らかな野を流れる水に浸して病室に差し上げるまでの苦心。

「如何てゐらつしやいますか」「おだいじに」肺を病む、見知らぬ同胞のためには多くをいひ得で、そと枕元に、お花を置いては望まるゝまゝに、さんびか等を歌つて來たあの時のこと。

病者への同情から、かそこに働く献身的な人々のすがたをみたためか、慰めのこゝろのあふれか、只だ何とは知らず、泪ぐみつゝ歌つたあの時のこと、よわりきつた病者にもかすかな、ほゝゑみの見えて、遂ひに共に歌ひ出した、あの日のこと、忘れたくない。

サンセット、パーテイーの、あのおごそかな、たそがれ、美しい夕映を背景にして、せまりくる夕ぐれの氣につゝまれつゝ、内外、上下、職業の差を問はず、悠然涌き起る、和やかな食卓の集ひ、燒きさかゝ篝火に赤く光るインデアンの風俗、フアイアフライの精の舞のすがたの輕やかさ、ハイヤワサを餘興として演ぜられた英語會員に、こゝに感謝の意を表します。

仕事部は、暫く中絶してゐた學用品の販賣を又つゞけて控室にノート原紙、原稿用紙等を堆く積んで自由に學生に取つて戴く。この夏休中の計畫は今より〳〵協議中とか。

音樂部では毎日曜平和博覽會、女子青年會休憩所にコワイヤを送つておたすけをし又時々は諸教會の傳道説教に應援する等、例會には勿論、これによつて、會の宗教的氣分を助長する事又多大である。

併しまだ私達の仕事は殘されてゐる。私達の魂の目は、もつとめざまされねばならぬ、否まだ私等の、仕事は始められてさへゐないそれだけにまた望みもあり、進まうとする努力のしがひを感ずるのである。

○

東京英和女學校女子青年會

三月二十四日に役員の選擧をした結果として

會長　佐藤　道子　　副會長　君塚　茂子
書記　深田　愛子　　會計　秋山　恭子
智育部　阿部　一枝　　體育部　大貫　起微
宗教部　井出　朝子　　社會奉仕部　那須由理
仕事部　三好　久子　　販賣部　熊崎　民子

ときまりましたそして四月から大變學生の人數がふえましたのでその方々が神の攝理によつて特別この學校においでになりました事を喜ぶ歡迎部と又その中で一人でも多くの方々を青年會にお招する樣勸誘部をつくりました、以後まだ出來てから日淺い智育社會奉仕宗教體育の四部は尙會員一同の興味をひきつゝ發達してまゐります、體育部に於きましては部長をはじめ委員の方々も熱心に學校の生徒を凡て肉體上に立派に育つてゆく樣つとめてゐる一方に宗教部は生徒間に精神上のかてを與へんとして働いて居ります、智育部では毎月梨の花といふ雜誌を出して或は世の中の有樣につきてのべられたり或は面白い美しいお話をのせたり又は奇麗な文章や繪をかゝげて生徒一同が高い理想を持つた者になる樣につとめて居ります、社會奉仕部は學校内に働く外病人をみまつたりして居ります、そして水曜日には各部が順々に集會を催し外から先生をお招きしてお話をうかゞつたり役員のものが話したりいたします、この樣にして四月から今まで役員會できめた通りの順序をもつて開いた水曜日の集りも成功をみつゝやつて來る事の出來ましたのは神の大いなる恵と感謝

の外御ざいません、以後會員一同益々祈りと努力を以　進む事を願つて居ります。

○　廣島女學校女子青年會

瀬戸内海の景色はすつかり夏らしくなりました。

四月から新たに活氣をました我校の青年會は緑なす木々と共に希望にみちて居ります。

昨年と同じく三つの部によつて組織して各々新たに役員を選びました。暖かい友情の流に一同うるほされて其の目的にめざし奉仕部は賣店又は特別の仕事會などによつて財政又は奉仕的事業に從事して居り音樂部は社交的に又宗教部の助となつて活動し、宗教部は靈的方面に盡力してゐます。

最近の働としては夏季修養會の爲に準備の仕事會をなしてゐます大概の禮拜は悉く青年會によつて導かれてゐて大分成功して居ます修養會も目前にせまりました、私等は今年の會合がもたらす神の賜を持ち望んで居ます。

一九二二、六、一三

○　福岡女學校女子青年會

私共は上級の姉様方を送りまして淋しく御座いましたが又々今度はそれに優る大勢の妹方を與へられて大變繁かになりました。

本年度の新役員は左の通りです。

會長　荒川　靜江　　會計　守田　路得

副會長　川瀬眞佐子　　書記　多賀　靜

各部長

宗教部長　川瀬眞佐子　　社交部長　淸水千鶴子

編輯部長　平野　久榮　　仕事部　治部　禰子

販賣部　藏原　康子　　同　上　島田　文子

同　田中　量子

私共の會は大變小さい會ては御座いますけれど神様の御助けによつては大きな會で力ある會となる事と信じて足らずながらも心をつくし精神をつくして主なる神のために大いなる決心をもつて働いて居ります。

どうぞ本部の皆々様この足らざる會の上に力を御注ぎ下さいましてどうぞ御助け下さいませ。

此の會が神の爲めに人のために盡す事の出來ます樣に心から神に願つて止みません。

皆々様次第に暑くなりますから御身體を御大切に遊ばしてますます御活動遊ばされん事を心から御願ひ致します。

○　神戸女學院女子青年會

本部の皆様御變もなく御發展でいらつしやいますか。早く女學院の青年會の發展振を御知らせ致　ませうと思つて居りましたのがこんなに遲くなつてしまひました。

此四月からそれは〳〵皆で働かふと決心して着々と實行して居ります。會長が大塩初枝様で副會長が小山イダ様ですの。私共がこんど新しい奉仕として雨傘を女子青年會で用意致しまして俄かに雨が降つて通學の方々がお困りの時にお貸し致す事になりました。其時に借賃として五錢出します。つまり一擧兩得で御座いますわね。奉仕と一つは財政を幾分か助ける事も出來ますから。

此五月二十日のバザーには隨分青年會員がイチゴとイチゴ水を賣

ゐのに働きました。賣上高が百九十圓餘りでした。小さい私共の働としては隨分よい成績で御座いませう。それから誕生日箱も學校内に二つかけまして各々の誕生日に今まで守られた感謝献金を入れる樣に致しました。又學校から少しの地面を戴きまして花園をこしらへ病氣の會員に送る樣に此の間種蒔を致しました。いゝ花が咲いて美しかつたら本部にも送つて差上げませうか。其種は小山樣が北京から買つていらつしやいましたのですの。

又もう一つ新しい會が出來ました。一つは新しく日曜學校を女學院保光館　日曜の午後二時から青年會が開く事になりもう一つはこれ迄やりました英語のバイブルクラスの姉妹會ともいふべき日本語のバイブルクラスを女學部の爲に開く事になりました。其日は英語のバイブルクラスと同時に水曜日第四校時に開いて居ります。兎に角私共は皆心を一つにして青年會の爲に勵んでゐる事をお喜び下さい。

此四月から會員の陶汰を致しまして心から熱心な人のみの集りに致しましたので會員は前の樣に多くは御座いませんが確により充實した會であると私共は喜んで居ります。

(御改良に御活動に活き〳〵とした御生活に御熱心さに會心の笑を洩さずには居られません、伸びて下さい種からお植ゑ遊ばしたお花きつと美しく咲き出るでせう一番よい花の結んだ種を送つて下さい修養會の土地を今年はきつと買ひ入れる筈ですから其庭に植ゑましては如何でせう)

○　横濱英和女學校女子青年會

私共が初めて青年會事業に携りました時は經驗をおつみになつた方々が皆卒業し後に殘つた私共は丁度彷徨ふ小羊の樣にどの道に行つてよいか分からなく唯祈によつて神にお頼りするより他に道は御座いませんでした然し神はこの小さい群の祈を聞いて下さいまして私共に勇氣と望と力とをお與へ下さいました青年會事業の中の日曜學校も初めは十數人程で御座いましたが今は八十人餘も集まるやうに神はして下さいました私共が此の無邪氣な小供等に接する毎にキリストが幼子について仰せられた事どもを思ひ出します猶文房具及びパンの販賣も續けられて居ります又寄宿舍の心ある方々が洗濯や裁縫(靴下、足袋、つぎ縫物)等引き受けて下さいますこの販賣部仕事部の大いなる努力によつて今までにない好成績をあげて居ります仕事部では今まで多く袋はり等致して居りましたが市の仕事部に伺つてなほ一層よい仕事を探がすつもりです。

毎週の青年會の集りも神の御恵によつて大變に活氣づき澤山の方々が喜んで出席して下さるやうになりました。私等無經驗の會員もこれによつて大いに勵まされなほ一層の祈りをもつて會のため社會のため神のために奉仕せうと心掛けて居ります。

○　德島女子青年會

大正十年四月十三日スコット氏宅にて例會をひらき眞に意義ある研究を致しました會後ピンポンをして樂しく遊びました。

其後毎週例會をひらき五月二十六日バザーのことにつき相談會をひらき其後五六回仕事會をしていよ〳〵六月二十五六日牧師館にてバザーをいたしました。クリスマス前には毎週研究の後にはスコット夫人から英語の讃美歌を教はる。

十二月二十四日にスコット氏宅にてクリスマス祝賀會をいたしま

した其後三月まで寒さのためあまり盛んなあつまりはございません會に熱心でありました玉造女史はかはられました。

玉造女史去りました後故いまだ仕事になれませんから萬事ゆきとゞきませんがお許し下さいまし。

米國シカゴより

横山用子

私の長い間の願は答へられて萬事都合よく實現されまして米國にまゐりました。

外國へ出てみましたら決して今までのような單純な生活では御座いません。また私の思つてゐたアメリカとも隨分ちがつて失望致しました。私が今まで接して來た多くの方々は皆眞實をもつて大いなる決心をしてわざ〳〵日本へ潔い御用をするために來られる方ばかりでした。併しこんな事も決して無益ではなくどんなことからも何かの敎訓を得られる事が何よりの喜びであり力で御座います。

御互に忙しいので度々には出來ませんが時々中西した子樣にも御目にかゝりますその度に御元氣で色々の御意見等うかゞつて隨分面白い時を持ちます。でも近い中にお歸りになりますので殘念で御座います。先づ學校の方から御知らせ申上げませう。これもほんとうに意外なもので御座いました。他人を相手には出來ませんがあまり外の人との力の相異がひどいので少なからず失望致しました。然しこれは致し方御座いません大部分の人は子供の時から習ひ初めその外澤山の音樂に接してゐるので御座いますもの二三年日本で習つた私の音樂は丸で御はなしにはなりませんまた内部の空氣も大へんこ異つて居ります。爭中にこちらに來られた大家が澤山集つてゐ爲に只今の Chicago Mussical College に參る事に致しましたがほんとうに不愉快なことで御座います宗敎氣分にみちた女學校時代がしのばれて〳〵仕方御座いませんおん然し今度へ御存じか存じませんが私を御つれ下すつた先生は昨年一年間女學院の音樂部長だつた方ですがこの先生が御結婚なさいますし先生の先生のミス、ターラプといふ方が歐羅巴へかへられるので外の先生にならふのならむりにそんな學校へ殘る必要もないので今度に全く空氣の異ふオベリンの音樂部へ參ろうかと存じて居りますこれは未定で御座いますが多分私に少しても滿足を與へてくれはしないかと存じて居ります。

こちらに參ります時から音樂の外に靑年會日曜學校の事業を少しでも見學致したいと存じて居りました夏季修養會にも一度は是非參りたいと存じて居りました然し私もそんなに自由のきく體では御座いませんしそんなに度々まゐることが出來ませんので音樂も自由になり樣子にもすつかりなれてから一度參つて充分に得て歸つて少しでも御用に立つたらと存じて居ります、シカゴ學生部幹事が今度女子靑年會の修養會に行かないかとお仰つて下さいますから八月にチイニーバーの會に參る事にいたしました。參ることに定りました以上出來る丈のことは致したいと存じて居ります。こんなことが頭に御座いますので近頃特別に色々日本の靑年會の事が考へられます。私共の時にはほんとうに赤ちやんだつた梅光女學院の靑年會もだん〳〵大きくなつて來たやうで御座います今頃は修養會の代員等も定めてゐる事だと存じます。

六月一日　晴　木

松宮様御休み。山添様お助け下さる、日本メソヂスト佐原教會牧師今井信藏氏御來訪。

自轉車の曲のりを見物に行く。夜北海道、樺太、朝鮮及び他の館より凡三十人程六時頃より茶話會に來らるミスパーザール、岡崎先生の御指導の許に樂しく過され山添様お手傳下されし由。休憩室二百十二人、喫茶室七十七人、看守二十七人。

六月二日　晴　金

上野様お休み。ミスアルキン勝部様御來援久野氏お花を生けて下さる、ミスアルキンよりお花を頂く、今日は亞米利加デーなる爲米國大使及び御夫人横濱の西洋人寄宿舍々監ミセスヂヨルダン共他數名御訪ひ下さる。長野縣尋常高等小學校生徒百十三名に實費にて紅茶を出す、休憩室凡三百八人喫茶室百八十四人看守二十九人

六月四日　晴　日

福引化粧品デーの延期を知らずして來られし人の多く休憩室はこゝを初めしより以來の多くの休憩者を迎へたり、御來援者山添姉、午後より毛利姉金原姉、御來訪者大倉夫人同御令孃、例によりミスチヤペル、東京女子大學の方々四人を御同伴にて讃美歌をうたつて下さる。來場者皆熱心に聞きし爲ミスチヤペル大いに喜ばる。休憩室凡三千二十六人、喫茶室六百三十八人、看守三十六人。

六月五日　晴

田川姉お休み。朝早くコックさん夫婦移轉せし由、昨日の忙しきに引きかへ入場者少なし、土間に水を流し洗ふ氣持よくなる、休憩室三百三十七人、喫茶室百二十三人、看守二十七人、來訪者内海夫人

六月六日　曇り

御來援者、ミセス、メンデルソン、ミセス、ハナホード、御來訪者ミスアルキン、今西夫人、ミセスメンデルソン機械館看守の方々にお話し下さる。今日はスエーデンデー、數人の西洋の方々御來場、休憩室百一人、喫茶室四十八人、看守二十七人、林様お休み。

六月七日　晴

越智様休み、三重縣の女學校の方々御來場、其の時校長先生々徒方にこゝは我等の國の河井先生のしてをられるキリスト敎女子青年會の休憩所であります、それて河井先生のおいでになる方向は確かにこちらです皆こちらを向いて敬禮なさい。禮！と號令の許に生徒一同敬禮す。

今日は化粧品デーにて忙しからんと豫想せしに反し暇なり、休憩室八百二十五人、喫茶室百六十五人、看守二十四人。

六月八日　雨

大呑先生よりお尋ね狀來る、誰も樣子を御通知せざりし爲なりき。先生の御紹介にて神戸男子青年會學生觀光團（四十四人）來られしも日本食のなき爲他のよき飲食店に御紹介す。田中夫人山添姉御來援休憩室八十九名、喫茶室八十八名、看守二十四名。

六月九日　晴

今日は少し暑き爲入場者比較的多し、勝部姉、山添姉御來援下さる休憩室二百八十九人、喫茶室五十九人、看守二十四人。

六月十日　曇り後雨

曇り勝ちの空から降り出した雨に傘の用意なき方々長い間雨宿りさる。二つの學校の生徒の方々一時に來られ場所のなき爲クラブ室も三疊も襖を取りのけて上げる、休憩室三百五人、喫茶室九十人、看守二十一人

六月十一日　晴

賓さがし。午後は目のまわるやうな忙しさ、江崎夫人御來援下され大いに助かる。殘念な事には今月の末に臺灣に行かれるとの事なごりおし。喫茶室のお客様が忙しさに御同情下さる。休憩室凡三千八百人、喫茶室五百九十人、看守二十二人。

○

第二會場に來てこゝに偶然に參りまして、私等若き者があまり見苦しい様子にこまつてしまつてゐました時こゝでゆつくりなほさして頂き又いろ〳〵のお手あつい事があつてほんとに有難ふ御座いました。

○

人類の爲に斯うした催しは非常に善いと思ひます。併し神は男女の區別なく人類を愛して下さるのが神の尊き御主意であると思ひます。尊き者も卑しき者も貧しき者も同樣に愛して下さるのが神樣の淸い御心ではありませんか。併し斯うして婦人專用として化粧室等を用ひるのは少々如何と思ひます。男でも此の暑さでは汗が出て氣持が惡いのです、男も女も暑いことは同じです。此の點よりして男子の洗面所も御備へ下さい私は心か　願ひます。立敎學院大學生

○

朝來第一會場をもみにもまれて疲れ切つた多數の女生徒を連れて涼しき屋内で休ませていたゞくのみか床かしき樂の音溫かきお茶さへ下さる御同情何とも譬へやうがありませぬ。實に〳〵道とはこうした美しい御心の現は　でしようか　謹みてこゝに感謝いたします。三重縣立阿山高等女學校女生一同に代り。

○

キリスト敎青年女子の諸嬢に深く感謝いたします。私等は京都り參りましてこの會を非常によろこばしく思ひました。今後ますます御發展あらん事を祈ります。我京都にもこの會を廣めたいと存じます。京都處女

○

YWCAの休憩室にて

前略混雜と刺激にすつかり疲れをつて、もう何物もなくなつた時見出したYWCAの休憩室は何よりのオアシスでした。

×

會場……

休憩室として最も適當な色彩から來る慰安―あまり安つぽい水色でなく。おちつきのある色の壁代用の板それは又淸らかな感じ、それにやゝ派手なしかしくどくはない花模樣それだけのものがあればこそその水色になつかしみを感ずる　その上の天上グリーンと白の交互のしぼり涼しさうな線を廣い部屋の中心にあつめるその板に配せられた、籐イスは親切にみちた低いやはらかいもの、私達は四時間半の長い時間を歩きまはつて、休みたくても不親切なかたいベンチより他には見出すことが出來ませんでした。そのところへこのファミリアな籐イスを見出した時の嬉しさ。そのイスの中心のテーブル同じものを用ひてセンターにあまり派手でない花を置いてある。それに一寸注意を引いて効果あるは壁にかゝれた聖句ですピンクと水とグリーンの縁をつけてハッキリした活字でかゝれてある。⬡形は何の意味かは知らないけれど……………その下に各地YWCAの廣告的一覽　それも何かを求める心にいゝものをあたへます。それに各地からこゝに來た人に「私の方……」と

云ふ親しい感じを與へます。手紙を書いたりするデスクこれはなくてならないものでした。―その上に十五六册の書物まああつてほしい樣なものゝこんな物をこの室で開く人はまあないでせう。すつかり頭を疲れさせてゐる人が決してこんなものを開くことはないでせう。それより畫報かアルバムの樣なものを置いた方がいゝと思ひました。中略

食堂の設備……

變なウエターがほとんど人をいやにさせてしまふこの博內の中にこんな美しい設けのあることはほんとうに幸ひです安心です。この企てがどんな風にしてどんな目的で設備せられたのかはよく知りませんが何と云つてもいゝ事です、子供などももうどつこにも行かなくてこゝにゐたいと云はせる位いゝ感じをあたへたらしく思ひました。こうした精神的文化生活をいとなんで居らるゝこゝの方々の働きを尊いと思ひました。

ぜいたくな人々はどんな「文化村」でも出來ます。ぜいたくな物をならべて出來たあの文化村の中よりもこうしたものゝ中にほんとうの文化生活はあると思ひます。金持はどんな勝手な事も今は出來るのです、こんなところでこんなことの爲に働いて下さる方に感謝をします。入ることをためらつてゐる田舍の人にもYWCAの休憩所を紹介して休ませてあげて下さい、私は紹介されて行つたればこそ知つたものゝ仲々こゝを知ることは困難です、こんな大きな機會を通してYWCAのほんとうの仕事を紹介して下さつたらいゝと思ひます。

大きな廣告、それは自分の利益目的の爲ならどんな大きな廣告でも出す人々の中に、人のため大きな廣告を出して「Triangle」の使命を知らして下さい。それからこれが Lady only といふのはどう云ふ意味か知らん、私は歩いてYMCAの何ものをも見ませんでした。こんな大きなものゝ中では男も女も同じやうに疲れきつてしまひます、男の健康も女のそれも今では殆んど同じ樣になつてゐる樣に思ひますYWCAとして婦人のみとしてもよろしいが……疲れきつた男子の方が二人づれと一人と一緒に入つてきたのでした、一人の男はその看板を見たのか見ないのか入つて來ましたが二人の男の方は入口からもどりました。

「人手が足りない加減かは知りませんがもう少し宗教的な感じがどこかに何にかの形であらはれてほしいと思ひました、然しそれは非常にむつかしいことですから何にもいふことは私は知りません」

（一九二二、六、八――雨あがりの日）

「子供達としても」若い人達はいゝました

やつぱり他の人とは違ふこれが一番大切なことでした一ペイのお茶を頂くうちにこういふ感じを與へました、それは私共にほんとうに滿足を與へました。

○

疲れた肉體をやすませていたゞきましたのみならず美しい清い深い神の御旨にそひ奉つて暖かい親しい心持で慰められたことはこの子等の靈の上に何ともいへぬ感謝を述べたいのです。

成蹊小學校

○

雨に濡れた體を愛のこもつた椅子に腰を下して神聖な讃美歌をきゝながら、心も淸くなつた樣な氣がして中食をいたゝかして戴いた事を深く〳〵感謝致します、丁度入りました時に私の知つてゐる幼

い時に教會でならつた唄を引いて居られました、ほんとになつかしい様に昔を偲びました厚く〳〵御禮申します。

君　子

○

私共の感想としては一番に氣持の可い場所を以て先に擧げますそしてキリスト教青年女子の皆様の深甚なる御待遇を受けて雨に困つた身體を休ませていたゞき甚食をさせていたゞいた事を大變〳〵感謝いたします、妙に響く樂の音美しい唄聲それ等を耳にし乍ら御飯を戴いた私共はほんとうに愉快でした、そして皆様のこの美しいお心よりなるこの擧を心から讃美いたします。心からお禮申し上げて筆をおきませう。お名前をも知らぬ皆様有り難うございました。

中國の女學生

1.K.S.
2.S.M
3.T.F　より

○

たゞすべてを感謝する!!! さう云ふより外に言葉を持ちません。久しい間旅に來て色々な雜音にすつかり忘れてゐた、私はお祈りつて云ふ事を思ひ出した、ほんとに感謝します。

廣島福高女

F.K
K.U.

○

妙なるオルガンの音に引込まれ思はず入れば美しい讃美歌が流れる樣に聞へて來た、かゝる雜沓の中にも尊い教への歌に少時ぼう然として立つてゐた、そうして初めて尊い神の教へを聞くことが出來るのを喜ぶ。

三　浦　生

○

此の痛き足何處かへかペンチを取らんと目を見張りて眺むればア、神の使よ此の涼しき休憩所實際心行くばかり休ませて頂きましたする内に厚きもてなしのお茶心行くばかり味はせて頂きました、有り難う存じました

田　崎　S　子

讀書紹介

「花咲く家」原著者はペリー氏で此の本誌に毎月お面白いお話を少女方の爲にお書き下さる村岡花子夫人の譯されたもので清い美しい意志の强い乙女が戀と生活問題とを同時に考へねばならぬ運命の下に戰ひ悲しみを胸に秘めて奉仕の生活に人々の心に花咲かせ多くの人々を敎化し行き最後の勝利を得る迄に天眞爛漫な無邪氣な幼子があやつりの糸となり、小供の智慧もて閉ざせる人の心を解く美しい物語です。輕妙な筆につひつられて一息に讀ませられます。笑つたり泣いたりして讀む中に尊いものを得られます。御讀みになりたい方は本部へ御申込み下さいますれば直ちに御送り申上ます。定價は一圓五十錢送料は十二錢で御座います。

新刊紹介

ペテロ前書研究

高橋信太郎解

本書は今年の春四月逝き給ひし高橋氏によつてものされたもので、グンケルの講解及びマイヤの註解其の他二三の書を參考とせられ加ふるにペテロ書研究によつて凡ての困難に打勝つ力と光とを受けられし氏が體驗によつてこれが裏書をなしつゝ講解されたるものである。苦境に闘ふ者も本書にあふるゝ生けるキリストに觸るゝ時其歸趨する所平安の境地を見出すであらふ。

（定價壹圓）

發行所　丁未出版社　東京麹町三丁目　振替東京七八四七

ルカ傳餘師

山室軍平著

山室先生は日本國を基督敎化する爲に、聖書を一般民衆的の讀物とする爲に新約聖書の平民的講解を著手され既に「マタイ傳餘師」「マルコ傳餘師」「使徒行傳餘師」を出版されましたが今度は「ルカ傳餘師」が公にされました。生命のある話をする爲には三つの事を述べる爲には三十の事を知つておく必要がありますが、本書は實に更に博い智識からして先生が最善の努力を籠めて書れたものである丈に講解が一般的で且つインスピレーショナルである。若し毎朝一課づゝ讀まるゝならば其日の旅路の貴い暗示を受けらるゝ事を信じるのである。讀みたい人の爲に

定價　上製　一圓五十錢　並製　八十錢

發行所　救世軍出版及供給部

ドレッスメーキング

編者　高木鐸子

服裝改良問題が盛に唱へられ且つお子供樣方が近來多く洋服を召しますが滑稽なほど見苦しい物が平氣で用ひられて居ます、今茲に高木氏によつてかゝれた本書には男女兒童の日常洋服の經濟と衛生と美觀とを具備したものを一般家庭に普及する爲めにエプロン、下着、間着、上着、帽子の裁方仕立方を丁寧に圖入で說明し其他簡易な刺繍洋服整理法、色の配合などについて數氏の說を紹介してあり

（定價上巻參圓）送料共

横濱市神奈川靑木町松本一五九二

發行所　高木鐸子

消息

ミスパードサル　本部の國際親交幹事として熱心に働かれし同氏は任期を終へて六月廿四日プレヂデント、ジャフアルソン號にて御歸米

織田安子姉。　神戸神學校の先生の同姉は今年神戸女子青年會長におなり下さる。

第一回幹事養成科卒業生。　相澤けい姉は神戸女子青年會に、大石みゆき姉は横濱青年會へ、高畠羽香姉は大阪青年會、山添道子姉は京都青年會、高久繁子姉は甲府、吉岡美智子姉は東京青年會へ赴任さるゝ事となりたり。但し山添姉は七月一ぱい東京にとゞまられ種々の方面にお手傳下さる

松宮しん子姉。　平博喫茶室主任の同姉は六月可愛らしい初孫さんを得られたり。

染文江姉　宮城女學校在學中女子青年會々長なりし同姉は御卒業後函館高等女學校に奉職せらる。

飯沼いく姉、東京女子大學校在學中同校女子青年會々長なりし姉は今春御卒業後遺愛女學校に教鞭をとらるゝ事となりたり、

ミスハートソン、英學塾に同氏は教鞭をとり居らるゝが六月二十七日同氏の爲に小石川ニトベ邸にて、二十年祝賀會催さるゝ由

門田キミ姉　東京にて研究に餘念なかりし姉は最近秦皇島の夫君の許に歸らる。

菅原やゑ姉。姉は先頃鈴蘭をどつさりお送り下さる札幌女子青年會よりも同じく鈴蘭を惠送されたり菅原姉へは賣上の二割　御送金したり（教會に寄附されし由）是等賣上純益金二十四圓六十二錢此外鹽の賜は多大

宮城レーンボークラブ。平博内女看守人の方々の爲にとて女學校二三年の可愛方々から十一圓三十六錢河井先生に托し送らたれり優しき御心を謝す

小笠原初子姉。本誌の愛讀者なりし同姉は六月十一日永眠さる謹んで哀悼す、

備考

一御注文は一切前金に願ひます
一御送金は振替でお拂込み下さる事が便利で安全です。但手数料一錢をお加へ下さい。郵便切手代用は一割増
振替東京二三七二三番

定價郵税共	内地	海外
一部	金貳拾錢	金貳拾四錢
一年前金	貳圓	金貳圓五拾錢

廣告料	
一行	金五拾錢
四分一頁	金五圓
半頁	九圓
全頁	金拾五圓

年極又は回數により割引有

大正十一年六月廿八日印刷納本
大正十一年七月一日發行
神田區錦町一丁目十六番地
發行兼編輯人　河井道子
東京市芝區櫻田和泉町七番地
印刷人　前川吉治郎
右同所
印刷所　三成舍
神田區錦町一丁目十六番地
發行所　日本基督教女子青年會
電話神田三六五二番
振替口座東京二三七二三番

have kept right up. Before the campaign proper there were many membership parties, parties for ministers, women church workers, newspaper men, etc. The campaign was held from May 15–24, unfortunately the worst month financially that Osaka has known. At the present time gifts and pledges amount to a little over Yen 11,000 but we have still to hear from many people who have promised to give. The Board has also decided to continue asking for gifts for a longer time. We hope to get nearer our goal.

One of the most pleasing things about the campaign was the interest taken in it by the business girls and students, and younger members of the Association. They have raised about Yen 1,500 with the "Blue Triangles",–being the gifts of about two thousand people. A boy apprentice read an editorial in the paper, and anonymously sent us fifty sen to show his approval of the project.

The campaign has been tremendously worth while, in education in the city concerning the Association and in learning to work together and feel a unity among ourselves, even if there were no further results.

KYOTO

Miss Page left Kyoto May 22nd for America where she will spend the summer vacation.

At the Dai Ichi Fiftieth Anniversary celebration we dramatized Hiawatha. This was their first attempt at dramatization but was indeed a successful one. More than fifteen hundred people attended the first performace and more than one thusand, the second one.

At the June meeting of the Committee, it was decided to give a series of afternoon teas for members of the Association at which Commiltee members would act as hostesses. The first one was on May 25th when Mrs. Ebina and Mrs. Nakagawa entertained thirty-two young women at tea in the garden. The English Club gave "Pandora's Box" and the Star Club gave a MayPole dance.

On June 8th Mrs. Fujinami and Mrs. Horiuchi acted as hostesses to the second group. This one took the form of an exhibit of the work of the Domestic Science Department. Miss Wiser and her cooking class made candy, cakes and bread which were exhibited and sold at cost and they also exhibited a breakfast, luncheon and dinner. The sewing and knitting classes had many beautiful things on display. Miss Morimoto of Doshisha gave two piano selections. More than forty-five women were present.

The Doshisha Y. W. C. A. gave a bazaar on June 17th to raise money to send their delegates to summer conference.

Among the guests at the Secretaries's residence recently was Miss Eleanor Holgate, formerly Girl's Work Secretary of the Northwest field.

holds the same position she was elected to last year.

The first of June Mrs. Wood and Aizawa San, our new industrial worker, returned from Tokyo and at once began the industrial work of the Association, with recreation for over eighty girls at the "Kanebo" Spinning Mills, more than twice that number being present and looking on, to enjoy the fun. Meetings at the Kanebo will be held from time to time, a Sunday School will be started this fall, and the time of the workers is filled now with interviews with such people as Mrs. Jo and Mr. Kagawa, Miss Komiyama (who is being trained for women's employment work with the City) and others whose point of view is important for the new enterprise. The managers at "Kanebo" are eager for the Y.W.C.A. work, and have provided four basket-balls as well as other materials for the games.

June 9th and 10th Miss Nishino of Wilmina Jo Gakko came for our annual religious conference, giving at four different meetings, a thoroughgoing introduction to the Christian life. In spite of severe rain on the second day, the attendance was fine, and there was group fellowship as well as definite results.

Pianos, long-expected, have arrived at both the Association and at the secretaries' home, Also, almost as much of a rarity, a delightful day-and-a-half's visit with Miss Scott!

On June 16th was held the first of a series of joint staff meetings with the Y. M. C. A., in which it is hoped to study our common problems.

OSAKA

Osaka Association has been so occupied with finance campaign affairs that altho regular work has gone along, no news has been given of our activities to our friends in various parts of the world. The spring term in the Educational department opened with a much larger registration than usual, and both day classes and evening classes are proving much more interesting, well attended and helpful. A party was given for the day-girls early in the term, at which Mrs. Yamamoto gave an interesting talk.

On one of Miss Kawai's visits the Cabinets of the three student Associations in the city were invited for a Sunday afternoon, and heard about the Student Conference in Peking.

Our new industrial secretary, Miss Takabatake, has arrived from Training School, eager and enthusiastic to begin her work. Miss Nakaji is having a new Sunday afternoon Bible hour at the Association since her return from America. Mrs. Hoshino is back from her visit to England and America, and Miss Howard has returned from England, so our recent Board meeting and our delayed Annual meeting have taken the form of a welcome party to all these friends.

Plans for our dormitory finance campaign began with January, and

22nd. On the 25th the Central Club held its first meeting at the Association Building, with over twenty-five present, and a wonderfully inspiring talk from Miss Uta Hayashi of the Osaka W.C.T.U. on the recent liberty accorded to women to attend political meetings, and their correspondingly increased community and spiritual responsibility. Miss Hayashi was generous in her praise of the ShinFujinkwai, which organizations of women secured the change in the law; said the two Christian women's organizations–only two out of thirty in Kobe and fifty in Osaka, –ought to cooperate more with one another and with all women's efforts. She said that each one of us should regard Kobe as "my house" where I am personally responsible for the entertainment of visitors, and for what good or evil conditions prevail. She encouraged us with an irresistible description of her faith in the Living God, which makes every day powerful, and at the same time free from care.

Miss McGregor has held two meeeings of the neighborhood club which she leads in Suma, (at present a knitting class,) in this past month. The second was at the Association residence, on June 15th. The Hirano Club met at the home of Mrs. Yoshioka on the 27th. Mrs. Yoshioka had called with Mrs. Adachi on the entire list of twenty members, in some cases making several calls before finding the person at home–to invite them to this meeting.

At the May Board meeting a change in the constitution was considered, to make possible an increase in the number of Board members. After further consideration at the June meeting (it being necessary to bring such a matter before two Board meetings and one general, or annual meeting) a special general meeting was called on June 9th, at which time the change was voted through, Mrs. Oshima and Dr. Noma being elected to bring up the number of Board members to 18. At the June meeting a general revision of the constitition was diseussed in some detail, and it was decided to appoint a committee to study the question and report at the first Board meeting in the fall. On Monday the 12th at a special meeting of the Board, the following officers were elected:

Miss Oda, President
Mrs. Izuno, Vice-president
Miss Kamoda, Treasurer
Mrs. Kimura, Secretary.

Miss Oda is the Bible teacher at the Congregational Women's Evangelistic School, and has had training at Oberlin, Ohio. Mrs. Izuno is a Kobe College graduate, as is Miss Kamoda, who is also a teacher in its Music Department.

Mrs. Kimura, the wife of the Social Work Director for the City,

THE YOUNG WOMEN OF JAPAN

(JOSHI SEINEN KAI)

Volume 19 July 1922 Number 7.

NATIONAL

The Associations in Japan have been greatly inspired by the visit of Miss Harriet Taylor. She has been with us since June 10th, stopping here on her way from China. The Yokohama and Tokyo staffs had a joint all day meeting on Saturday, at the home of Mrs. Imanishi in Omori, and Miss Taylor was the speaker. Reports of the Japan Christian Conference, of the Peking W.S.C.F. Conference and of the China Christian Conference were given. In the afternoon a "Field Meet" was held in Mrs. Imanishi's living room. Teams from the two Assciations and from National competed for a beautiful tin loving cup. Miss Taylor and two National Commitee members were the judges, and delivered the cup to Tokyo Association.

Miss Anna P. Birdsall, National Hostess Secretary, will sail on the "President Jeffeson" on June 24th, for Seattle.

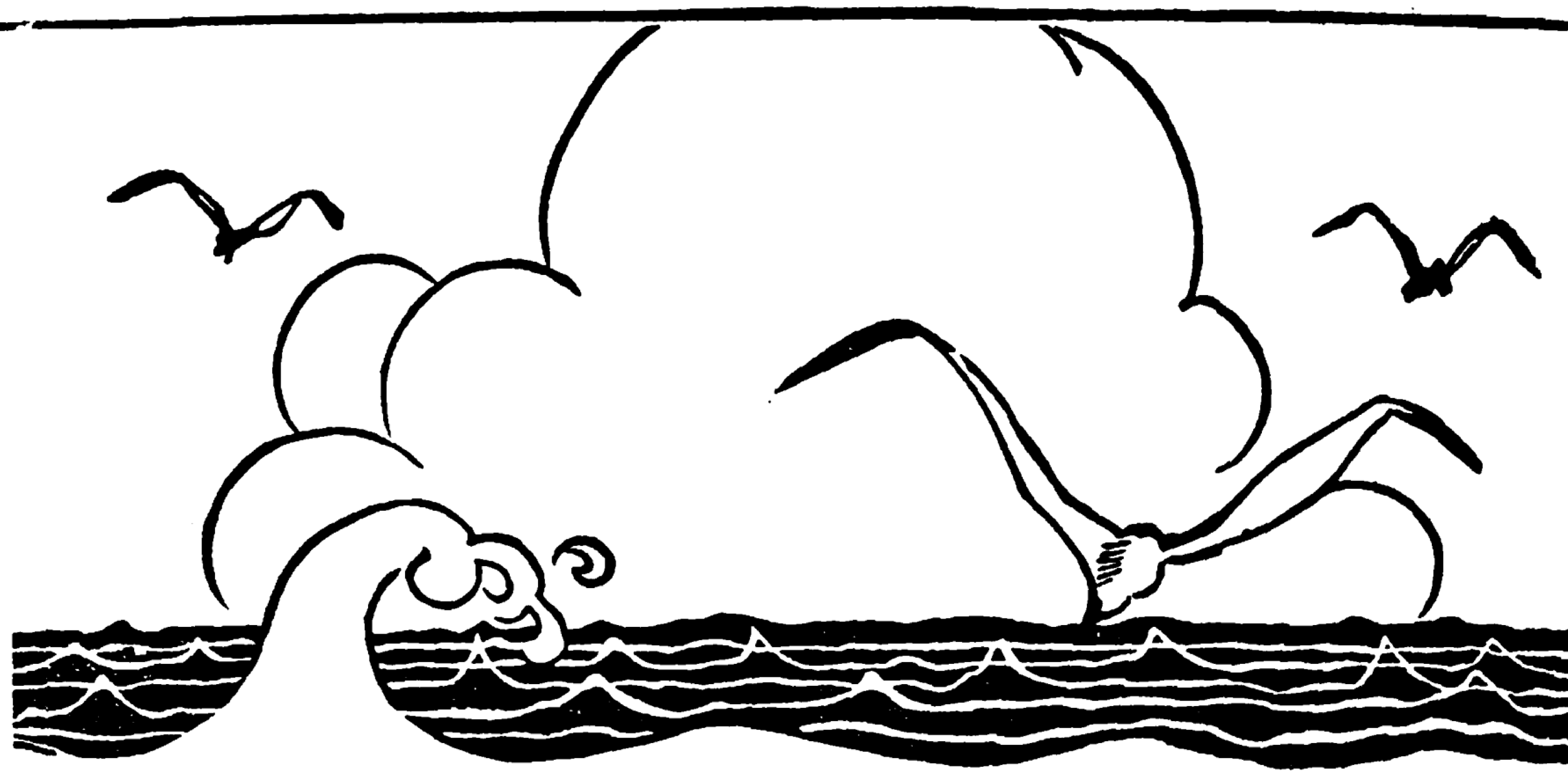
Miss Clare Armstrong sailed on the "Korea Maru" on May 25th for San Francisco. Miss Birdsall and Miss Armstrong do not expect to return to Japan, and it is with great regret that we let them go. Miss Mary Page sailed on the "Korea" with Miss Armstrong, to spent the summer with her brothers in California. She will return to Japan in September.

KOBE

There was great rejoicing when Miss Onomi arrived back in Kobe after her strenuous two months at the Exposition Y.W.C.A. A welcome meeting had been planned for the morning of the 29th on May, the day she came, and the Frizia and White Lily Clubs, of the morning English classes carried out a splendid program, presided over by Mrs. Izuno, president of the Frizia Club and new member of the Board. Miss Onomi is in fine health and spirits, and does not seem to have been tired, but stimulated, by her hard work in Tokyo. She has told us many interesting tales of the Exposition.

The Club of Academy girls at Kobe College has been formed by Miss Chappell, and is full of enthusiasm, having weekly meetings which alternate Bible with other subjects.

Neighborhood clubs have been active this month, beginning with a meeting of the Mikage club at the home of Mrs. Matsuo on May



夏季とクリーニング

（乾式洗滌）

新緑につゝまれた清々しい
工場でクリーニングした
洋服の着心地の好さ

営業項目
クリーニング
リヨン染
西洋洗濯
和服洗張
洗濯石鹸製造
洗濯用品陳列販賣

工場
中澁谷
七九四
七九六番地

東京市芝區西久保櫻川町十番地

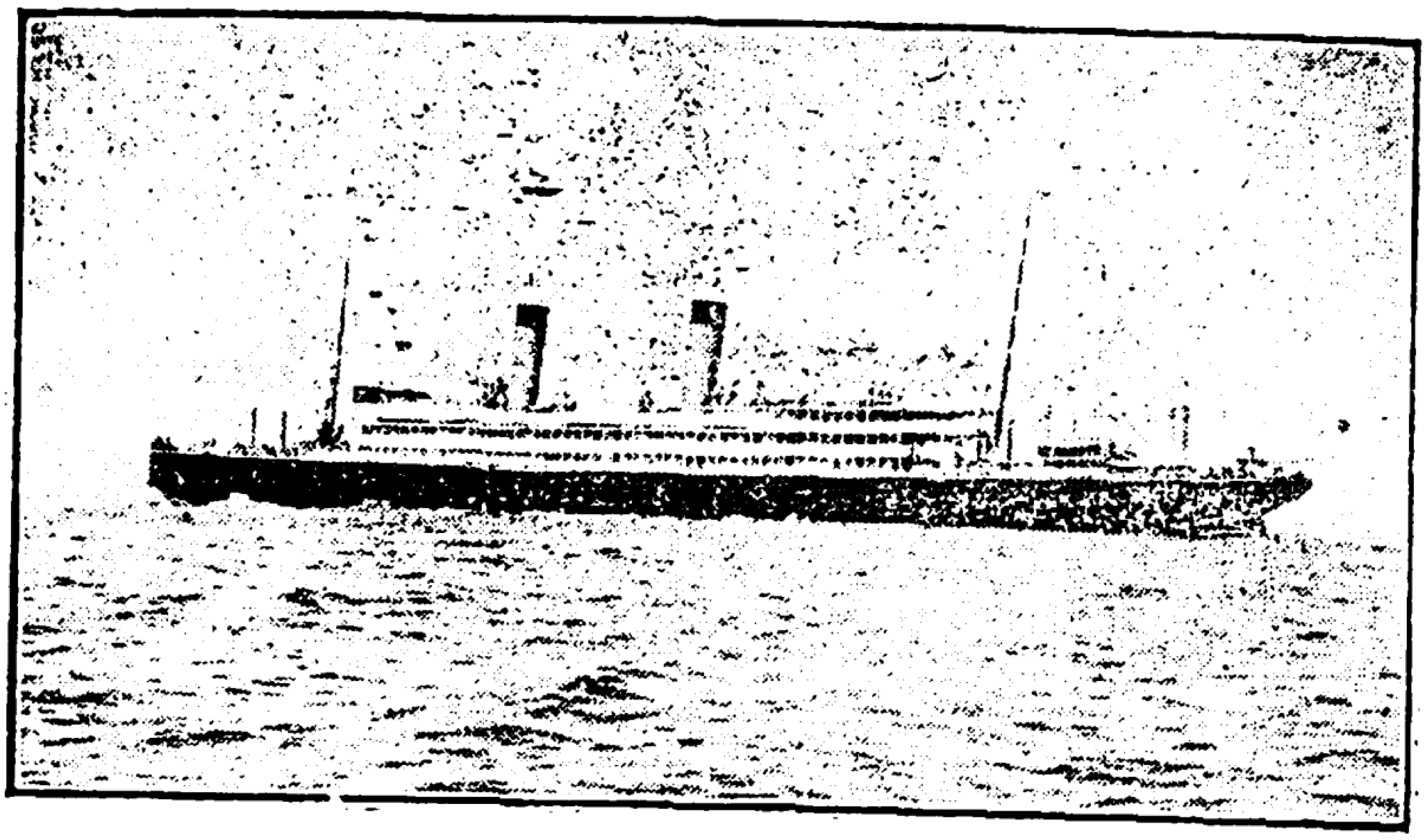
白洋舍クリーニング株式會社

電話芝（四五四〇番
六五五四番
八六八一番

支店
大阪高麗橋
名古屋伏見町


百萬圓でも
君の强健な其の胃の腑を百萬圓出すから僕
に賣つて呉れ給へ……と言はれた處で
是ればかりは出來ない相談。けれども
玆に良法あり、金廿錢を投じてホシ胃
腸藥を求め常に服用試みられよ。如何
なる胃腸の患も直に治つて百萬圓でも
買へない强健な胃腸に忽ちなれる
▲定價 金五十錢 一圓 試用金廿錢▼
胃病良藥
ホシ胃腸藥
東京京橋南傳馬町
星製藥株式會社

東洋汽船株式會社



本社 東京市麹町區永樂町一丁目一番地（電話丸ノ内一五三〇、一五三一、一五三二、一五三三番）

營業所 横濱市山下町五番（電話本局四四〇〇、四四〇一、四四〇二、四四〇三番、四四〇四）

出張所
神戸市海岸通七番地。香港、キングス、ビルヂング。
上海四川路ノース、チャイナ、インシユランス。ビルヂング。マニラ、チャコビルヂング。桑港、マーケット街六五二、マーチャンツ、ナショナル、バンク、ビルデング。紐育、ブロードウェイ、一六五。ホノルル、アレキサンダー、ヤング、ビルヂング。

北米航路（桑港、布哇ホノルル、横濱、神戸、長崎、上海、マニラ、及香港間）

本航路は太平洋航路中氣候温和、海上平穩なること第一にして船舶の巨大、設備の完全、待遇の懇切とに由り航海最も安全且つ愉快なり

大洋丸	排水量 二二、〇〇〇噸
天洋丸	同 二二、〇〇〇噸
春洋丸	同 二二、〇〇〇噸
コレヤ丸	同 二〇、〇〇〇噸
サイベリヤ丸	同 二〇、〇〇〇噸
波斯丸	同 九、〇〇〇噸

さいべりや丸波斯丸は往復共大連に寄港す
大連航路の偉觀なり

南米航路（香港、門司、神戸、横濱、布哇、桑港、羅府、墨國、巴奈馬、秘露及智利諸港間）

本航路は東洋南米唯一の定期航路なり

安洋丸	排水量 一八、七〇〇噸
銀洋丸	同 一六、〇〇〇噸
樂洋丸	同 一八、五〇〇噸
靜洋丸	同 一四、〇〇〇噸

各寄港地及各國樞要都市に代理店の設備あれば船室保留並に發着日割等は最寄に就て御問合せを乞ふ

女子青年界第拾九卷第七號（毎月一回一日發行）

大正十一年六月廿八日印刷納本　大正十一年七月一日發行　明治卅七年五月七日第三種郵便物認可